



昭和十一年十月

朝鮮産業經濟調查會諮問答申書

朝鮮總督府

6
9

602
91

朝鮮産業經濟調查會諮問答申書

内閣文庫	
一冊	ハクニハ五号
和書	



目次

朝鮮産業經濟開發ニ關スル一般方針

第一 農林水産業ニ關スル件

農 林 業

- 一 農業用土地ノ配分及利用ノ改善ヲ圖ルコト……………三
- 二 農業經營ノ改善ヲ圖ルコト……………五
- 三 森林ノ利用増進ノ徹底ヲ圖ルコト……………九
- 四 工業原料農林産物ノ増産ヲ圖ルコト……………一〇
- 五 農林産物ノ處理方法ノ合理化ヲ圖ルコト……………一三

水 産 業

- 一 漁場ノ開拓保護並ニ企業ノ安全ヲ圖ルコト……………一三

- 二 水産業及鹽業開發ノ爲干潟淺海及内水面ノ利用ヲ圖ルコト……………一五
- 三 水産物ノ價値ノ増進ヲ圖ルコト……………一六

第二 鑛物資源及動力資源ニ關スル件……………一九

- 一 鑛物資源ノ調査探鑛ニ關スル施設ヲ充實シ之ガ開發ヲ促進スルコト……………一九
- 二 鑛業企營ノ合理的發展ノ方策ヲ講ズルコト……………二二
- 三 茂山鐵山ノ開發ヲ急速ニ實施スルコト……………二三
- 四 發電水力ノ開發ヲ促進スルト共ニ電力統制計畫ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト……………二四

第三 工業ニ關スル件……………二七

- 一 工業ノ統制ニ關シテハ鮮内各般ノ事情竝ニ内地及滿洲ニ於ケル工業トノ關係ヲ考慮シ適當ナル施策ヲ講ズルコト……………二七
- 二 國策上重要ナル工業ニ付テハ特別ノ振興策ヲ講ズルコト……………二九
- 三 工業ノ合理的分布ヲ圖ルコト……………三〇

- 四 中小工業ノ振興ヲ期シ併セテ大工業トノ調整的發達ヲ圖ルコト……………三三
- 五 勞働效率ノ昂上ト勞資間ノ融和ヲ圖ルコト……………三三

第四 商業及貿易ニ關スル件……………三五

- 一 對外貿易竝ニ通過貿易ノ振興ヲ圖ルコト……………三五
- 二 對内地貿易ノ改善伸展ヲ圖ルコト……………三六
- 三 中小商業經營ノ合理的改善策ヲ講ズルコト……………四〇

第五 交通ニ關スル件……………四三

- 一 資源及産業開發ノ見地ヨリ鮮内交通施設ノ普及改善ヲ圖ルコト……………四三
- 二 各種交通機關ノ統制ヲ圖ルコト……………四七
- 三 對外航路ノ擴充ヲ圖ルコト……………四八
- 四 産業貿易發達ノ趨向ニ順應シ港灣施設ノ完備ヲ圖ルコト……………五〇
- 五 産業經濟發達ノ趨向ニ順應シ通信機關ノ擴充ヲ圖ルコト……………五二

第六 金融ニ關スル件……………五三

第七 産業教育ニ關スル件……………五七

一 實業教育ノ各般ニ互リ其ノ普及擴充ヲ圖ルコト……………五七

二 産業經濟發展ノ趨向ニ順應シ初等普通教育ノ改善普及ヲ圖ルコト……………五六

三 國語ノ普及ニ最善ノ努力ヲ拂フコト……………五九

第八 一般的事項……………六二

一 内外産業經濟ノ積極的建設ニ關スル連絡ヲ一層緊密ナラシムルコト……………六二

二 産業ニ關スル試驗調査機關ノ擴充ヲ圖リ相互ノ連絡ヲ緊密ナラシムルコト……………六二

三 發明ノ獎勵機關ヲ設クルコト……………六三

四 内外地及滿洲國ニ於ケル各種研究機關相互ノ連絡ヲ圖ルコト……………六六

五 氣象竝ニ海洋調査機關ノ擴充ヲ期スルコト……………六六

希望事項……………六九

一 農林水産業ニ關スル件……………六九

二 動力資源ニ關スル件……………六九

三 交通ニ關スル件……………六九

附 錄……………七〇

一 朝鮮産業經濟調査會設置趣意書……………七〇

一 朝鮮産業經濟調査會規程……………七〇

一 朝鮮産業經濟調査會諮問事項……………七一

一 朝鮮産業經濟調査會會議日程……………七一

一 朝鮮産業經濟調査會議事規則……………七一

一 朝鮮産業經濟調査會名稱……………七九

一 朝鮮産業經濟調査會分科會ノ構成……………八八

一 朝鮮産業經濟調査會ニ於ケル總督挨拶……………一〇〇

一 朝鮮産業經濟調査會ニ於ケル會長挨拶……………一〇三

朝鮮産業經濟開發ニ關スル一般方針

朝鮮産業經濟開發ニ關スル一般方針

朝鮮ニ於ケル産業經濟ハ現下ノ政治、經濟、思想等各般ノ國際的情勢ニ照シ且日滿一體強化國策上朝鮮ガ地理的ニ又資源的ニ負荷スベキ重責ニ鑑ミ國策ノ大綱ニ順應シ積極的ニ開發振興ノ方策ヲ講ズベキ時期ニ當面シタルヲ以テ速ニ原始産業中心方策ヨリ多種廣汎ナル産業ノ全面的發展方策ニ轉換シ農工併進ヲ旨トシ産業大衆ノ厚生ヲ圖リ農本ニ培フノ一面爾他ノ諸産業殊ニ搖籃時代ニ在ル鑛工業ニ付テハ其ノ飛躍的振興ヲ期スルト共ニ内地及滿洲ノ産業トノ連絡ヲ緊密ニシ朝鮮ノ地理的且資源的特質ニ鑑ミ帝國全般ノ需要充足ニ充分ノ寄與ヲナス用意ナカルベカラズ而シテ此等政策ノ實施ニ方リテハ世界經濟ノ情勢、特ニ現下時局ノ重大性ニ鑑ミ我が經濟圈內ニ於ケル資源ノ總動員的活動ニ依リ世界經濟戰ノ勝者タルノ地位ヲ不拔ニ培フト共ニ廣義國防ノ要望ヲ充足スル趣旨ノ下ニ我國財政金融其ノ他ノ狀況ヲ勘案シテ其ノ緩急ヲ律スルノ要アリ

第一 農林水産業ニ關スル件

第一 農林水産業ニ關スル件

朝鮮ノ農林水産業ハ日滿關係ニ於ケル朝鮮ノ經濟的地位及最近躍進ノ緒ニ就キタル鮮内他産業トノ相互依存關係ヲ考慮シ且鮮内最大多數住民ノ生活ニ最モ緊密ナル關係アルニ鑑ミ尙有事ノ際ニ於ケル需要ノ充足ヲ圖ル目的ヲ以テ内地及滿洲ト協調連絡ヲ保チ斯業ノ改善伸展ヲ期スル趣旨ノ下ニ更ニ大要左ノ方策ヲ採ルノ要アルモノト認ム

農 林 業

一 農業用土地ノ配分及利用ノ改善ヲ圖ルコト
朝鮮ニ於ケル農業者ノ分布狀況ヲ見ルニ人口相當稠密ニシテ耕地狹隘ヲ告グル地方アル一面人口比較的稀薄ニシテ農法亦粗放ナル地方アルノミナラズ開墾可能地及改善ヲ要スル耕地モ尠カラザル狀況ナルヲ以テ農業者移住ノ助成畑作適地ノ開墾不良畚ノ改善高地帯ノ開發等ヲ圖リテ農業用土地ノ配分及利用ヲ合理的ナラシメ以テ農業ノ進歩改善農民生活ノ安定ヲ期スルノ要アリ

施設計畫

イ 農業移民ノ助成ヲ圖ルコト

耕地狭少ニシテ人口稠密ナル地方ノ農業者ヲ然ラザル地方へ移住ヲ獎勵スル爲未開墾地及農法粗放ナル既開墾地ヲ割當ツル等農地ノ提供方法ヲ講ズルノ外移民獎勵ニ關スル施設竝ニ移住地ニ於ケル移民ノ保護指導ニ關シ必要ナル施設ヲ爲スト共ニ移民事業ニ對スル助成方法ヲ講ズルノ要アリ

ロ 林地利用區分調査ヲ行フコト

民有林野中ニハ森林トシテ存置ノ要ナキモノ相當面積ヲ占ムルト思料セラレルガ現在兩者ノ區分明瞭ナラザル爲林政上竝ニ國土利用上數多ノ支障アリ依テ森林トシテ存置ヲ要スル林野ノ地域ヲ區分決定シ其ノ改善徹底ヲ圖ルト共ニ森林トシテ存置ノ要ナキ土地ハ之ヲ開放シテ農牧ノ用ニ供シ得ル途ヲ拓キ各種産業ノ綜合的發達ニ資スルノ要アリ

ハ 畑作適地ノ開墾ヲ助成スルコト

棉花増産計畫植桑獎勵計畫其ノ他ノ畑作増産計畫ニ順應シテ畑地ノ擴張ヲ要スルノミナラズ人口増加ニ伴ヒ不足耕地ヲ補充スルノ要アルヲ以テ全鮮ニ互リ畑作適地ノ

調査ヲ爲シ之ニ基キテ畑地ノ開墾助成ヲ爲スノ要アリ

ニ 沓ノ改善事業ヲ助成スルコト

朝鮮ニ於ケル沓ノ總面積ノ約六割ハ水利不安全沓ニシテ常ニ旱魃ニ依ル慘害ヲ蒙リツツアル實情ナルヲ以テ此等水利不安全沓ニ付根本的恒久策ヲ樹立スル爲之ガ調査ヲ爲シ之ニ基キテ水利不安全沓ノ改善事業ヲ助成スルト共ニ改善ノ見込ナキ沓ノ地口ヲ變換シ又用水源ノ完備セル地區ニ付テモ沓ノ經濟的利用ヲ促進スル爲地區内水利施設ノ改良事業ヲ助成スルノ要アリ

ホ 高地帯ノ開發ヲ圖ルコト

從來高地帯ニ散在シ國土保安上支障尠カラザル火田ヲ整理シ防風林ノ造成及地盤保護ノ施設ヲ爲スト共ニ農耕適地ノ調査開墾南鮮人口稠密地ヨリノ移民助成該地帶適應作物品種ノ選出普及及農民ニ對スル營農ノ濃密ナル指導監督ヲ爲シ以テ高地帯ノ開發ヲ圖ルノ要アリ

二 農業經營ノ改善ヲ圖ルコト

朝鮮農業ノ現狀ニ鑑ミ農業經營ノ形態及方法ノ合理化ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアル

ヲ以テ自作農ノ創設維持ニ關スル積極的助成策ヲ確立スルト共ニ農家副業ノ振作、農用地ノ利用、肥料ノ配給、農具ノ改良普及ニ關シ適切ナル方策ヲ講ジ、他面適地適作主義ニ依リ作物ノ栽培ヲ按配スルト共ニ養蠶、畜産ノ經營ヲ適宜加味シテ營農ノ多角形化ヲ圖ル爲此等ニ關スル諸施設ヲ改善擴充スルノ要アリ

施設計畫

イ 自作農創設維持ノ助成ヲ圖ルコト

農村ノ中堅タル自作農減少ノ趨勢ニ稽ヘ且農業經營形態ヲ合理的ナラシムル爲創設維持農家ニ對シ低利資金ノ融通ヲ圖ルト共ニ其ノ農家ノ農業經營ヲ合理的ナラシムルヤウ指導ノ十全ヲ期シ、他面本事業ノ主體ニ對シ國庫補助金ノ交付、其ノ他ノ助成方法ヲ講ジ、尙自作農ノ創設ニ付テハ農地ノ買收ヲ容易ナラシムルノ要アリ

ロ 農家副業ノ振作ヲ圖ルコト

農家ノ餘剩勞力ヲ利用シテ現金收入ヲ増加シ以テ農家經濟ヲ向上セシムル目的ノ下ニ朝鮮ニ於テ最モ主要ナル副業タル養蠶業ノ内容ヲ充實セシムル爲之ガ獎勵ニ付一段ノ考慮ヲ加フルト共ニ蠶具ノ製作、其ノ他諸副業ヲ選定シテ生産ノ指導獎勵ヲ爲シ併セテ生産ノ統制ヲ圖リ又生産品ノ處理方法ニ付テハ之ヲ合理的ナラシムル施設ヲ

講ズルノ要アリ

ハ 農用地ノ設營ヲ圖ルコト

燃料、肥料及飼料等ノ農用地產物ノ供給ヲ豐ナラシムル爲地元ニ林野ヲ所有スル農家及資力アル農家ニ對シテハ之ガ増産又ハ取得ノ途ヲ自ラ講ゼシムルト共ニ之ヲ爲シ得ザル細農ニ對シテモ農用地產物ヲ安易ニ取得セシムルヤウ面等ノ公共團體ヲシテ農用地ノ設營ヲ爲サシムルノ要アリ

ニ 肥料ノ配給並ニ施用ノ改善ヲ圖ルコト

營農法ノ進歩ニ伴ヒ肥料ノ配給並ニ施用如何ハ直ニ農業經營ニ重大ナル影響アルヲ以テ普遍的ニシテ經濟的ナル自給肥料ノ増産改善ヲ圖ルト共ニ速ニ全鮮ニ於ケル耕地ノ土性調査ヲ完了シテ施肥ノ合理化ヲ促シ併セテ金肥ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正ヲ圖ル爲朝鮮ノ實情ニ適應スベキ肥料ノ統制ヲ行フノ要アリ

ホ 農具ノ普及及改善ヲ圖ルコト

朝鮮ノ農家ハ未ダニ農業ニ必須ナル農具ヲモ常備セザルモノ尠カラザルヲ以テ速ニ之ガ普及ヲ圖ルト共ニ朝鮮ノ民度ト農法ニ適スル農具ノ調査ヲ行ヒ漸次優良農具ノ普及ヲ圖ルノ要アリ

（）食糧畑作物及果樹蔬菜類ノ改良増殖ヲ促進スルコト
朝鮮ノ氣候風土ニ適シ而モ増産ノ餘地多キ粟、麥類、豆類等ノ食糧畑作物ニ付テハ從來ノ増産施設ヲ一層強化擴充スルト共ニ補食作物トシテ最モ適當ナル甘藷ト馬鈴薯ニ付新品種ノ選出普及指導員ノ設置等積極的ニ増産ヲ圖リ以テ食糧及馬糧ノ充實ヲ期シ尙果樹蔬菜類ノ栽培増殖ニ付一段ノ工夫ヲ爲スノ要アリ

ト 畜産ニ關スル諸施設ヲ改善擴充スルコト

有畜農業ヲ普及徹底セシメ農業經營ノ合理化竝ニ農家經濟ノ向上ヲ期スル爲

1 有畜農業ノ經營様式及實施設計ヲ決定シテ適當ナル指導方策ヲ樹立シ

2 朝鮮牛ノ改良増殖ヲ圖ルト共ニ其ノ他家畜ニ付テモ地方ノ實情ニ適應セル獎勵方針ヲ確立シ

3 畜牛共濟制度ノ強化擴充竝ニ之ガ助成ヲ圖リ將來ニ於テハ更ニ之ヲ一般家畜ノ保險制度ニ迄推及セシメ

4 特ニ馬産ニ付テハ産業及國防上ノ重要性ニ鑑ミ之ガ生産獎勵ヲ促進シ

5 本府及地方ノ種畜生産配付事業ヲ擴充シテ家畜家禽ノ供給ニ資シ

6 畜力、厩肥及家畜生産物ノ利用厚生ヲ圖リ

彼上ノ施設ノ實施ニ伴ヒ本府ニ於ケル畜産行政機構ノ刷新充實ヲ圖ルノ要アリ

三 森林ノ利用増進ノ徹底ヲ圖ルコト

森林ノ現況ト各種産業勃興ノ趨勢トニ鑑ミ林業ノ經營ニ付テハ國土保安、水源涵養等公益上ノ使命ノ達成ヲ期スルト共ニ林野ノ完全ナル利用ヲ促進スル爲更ニ從來ノ諸施設ヲ擴充スルノ外特ニ未利用林ノ開發、潤葉樹ノ利用、各種用材林ノ造成等ニ關スル適切ナル對策ヲ樹立シ以テ一層林利ノ開發増進ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 未利用林ノ開發ヲ圖ルコト

朝鮮ノ森林中ニハ搬出設備整ハザル爲未ダ猶全ク利用シ能ハザル林分多キヲ以テ各所適應ノ運材施設ヲ施シ未利用林ノ開發ヲ圖ルノ要アリ

ロ 潤葉樹ノ利用増進ヲ圖ルコト

潤葉樹ハ未ダ猶大部分利用セラレズ山地ニ死藏セラルルノ現狀ニ在ルモ近時其ノ用途著シク擴大セララルニ至リタルヲ以テ製材事業ノ勃興ヲ期シ以テ潤葉樹ノ利用増進ヲ圖ルノ要アリ

ハ 用材林ヲ造成スルコト

鮮内ニ於ケル用材ノ需要量ハ逐年増加シ既往ノ實績ニ微スレバ將來著シキ缺乏ヲ來スノ虞アルヲ以テ速ニ用材林ノ造成ヲ圖リ以テ各種用材ノ充足ニ資スルノ要アリ

ニ 災害防除林ノ施設ヲ促進スルコト

朝鮮ノ地質、氣象、林相及比年頻發スル風水害等ニ鑑ミ國土保安竝ニ風水冷害等ヲ防除スル爲メ水防林、遊水林、防風林、防潮林、海岸砂防林等ノ災害防除林ヲ施設スルノ要アリ

四 工業原料農林産物ノ増産ヲ圖ルコト

各種工業ノ鮮内ニ進出勃興シツアル現狀竝ニ最近ノ國際情勢ニ鑑ミ棉花、羊毛、木材、パルプ等本邦ニ於ケル重要工業原料ノ増産ヲ圖ルハ勿論朝鮮ニ於テ有望視セラレル共ノ他各種工業原料農林産物ノ増産ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 棉花増産計畫ノ強化ヲ圖ルコト

内外ノ情勢ニ鑑ミ急速ニ棉花ノ増産ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアルヲ以テ現行棉花増産計畫ヲ擴充シ棉作適地ノ擴張、最低價格ノ補償、指導監督職員ノ増員其ノ他必要ナル

施設ヲ爲スノ要アリ

ロ 特用作物ノ獎勵ヲ行フコト

工業原料トシテ有望ニシテ且朝鮮ノ氣候風土ニ適スル特用作物中煙草、甘藷、馬鈴薯、菊芋、苧麻、菜種、亞麻、蓖麻、薄荷、ホツプ等ニ付優良品種ノ選出普及、生産物ノ販賣斡旋指導職員ノ設置其ノ他必要ナル施設ヲ爲シ尙甜菜ハ高地帯ノ開發上有望ナル作物ト認ムルニ付各般ノ試験調査ヲ促進シ速ニ獎勵ノ基礎ヲ確立スルノ要アリ

ハ 羊毛ノ増産ヲ圖ルコト

現下ノ國際情勢竝ニ農業經營改善ノ見地ヨリ綿羊増産ノ要緊切ナルモノアルヲ以テ之ガ増産計畫ヲ擴充シ羊毛ノ増産ヲ圖ルノ要アリ

ニ 木材パルプ原料資材ヲ増産スルコト

輓近纖維工業ノ勃興ニ伴ヒ益之ガ資材ノ需要増加シ來リタルヲ以テ將來ニ於ケル木材パルプ資源ノ供給ヲ充分ナラシムル爲メ原料資材ヲ増産スルノ要アリ

ホ 軍需工業用材ノ増産ヲ圖ルコト

軍需工業用材タルケルミ、ヲノ、レカンバ、ケヤキ、ヤチダモ、トネリコ等ハ孰レモ國策上重要ナル林産物ナルニ拘ラズ蓄積少ク將來ノ供給上憂慮スベキ實情ニ在ルガ此等潤

葉樹ノ生産ハ長年月ヲ要スルヲ以テ豫メ一定計畫ヲ樹立シテ増殖スルノ要アリ

五 農林産物ノ處理方法ノ合理化ヲ圖ルコト

農業ノ堅實ナル發達及農家經濟ノ充實ヲ期スル爲農林産物ノ處理方法ノ合理化ヲ圖ルハ朝鮮ニ於ケル之ガ現状ニ鑑ミ最モ緊切ナリト認メラルヲ以テ販賣機關及販賣幹旋機關ノ設置普及並ニ販賣組織ノ強化ヲ期スルト共ニ農林産物ノ處理ヲ適切有利ナラシムル爲加工貯藏並ニ運輸ニ關スル諸施設ノ改善充實ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

繭棉花以等ノ特殊産物ニ付テハ販賣統制現ニ行ハレツツアルモ其ノ他ノ農林産物ノ處理方法ハ極メテ不充分ナル實狀ニ在ルヲ以テ之ガ改善ヲ圖ル爲販賣機關ノ設置普及ヲ圖リ販賣幹旋機關ヲ統制シ販賣機關トノ連繫ヲ緊密ナラシムルト共ニ販賣加工貯藏運輸方法及資金融通方法等ノ改善ヲ圖リ尙販賣並ニ販賣幹旋ニ關スル設備及事業ニ對シテハ助成方法ヲ講ズルノ要アリ

水 産 業

一 漁場ノ開拓保護並ニ企業ノ安全ヲ圖ルコト

沿海州黃海及支那東海沖合ニ於ケル遠洋漁場ハ尙相當擴張ノ餘地アルヲ以テ之ガ開拓ニ努メ優良漁船ノ普及漁港ノ修築等ト相俟テ漁獲ノ増進ヲ圖ルト共ニ特ニ沿岸漁業ニ付テハ漁利永續ノ方策ヲ樹立シ尙企業ノ安全ヲ期スル爲諸種ノ施設ヲ講ジ以テ水産業ノ健全ナル發達ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 遠洋漁場ノ開拓ヲ圖ルコト

朝鮮近海ニハ沿海州沖合黃海支那東海等朝鮮漁業ノ進出スベキ好漁場多キヲ以テ遠洋ニ於ケル新漁場ノ開拓及新規漁法ニ對スル助長獎勵ヲ爲スト共ニ一面日本海沖合ヨリ沿海州ニ互ル海區ニ於ケルめんたいさばいわし等黃海方面沖合海區ニ於ケルあじさばえびたい等ノ外遠洋未知ノ漁場尠カラザルヲ以テ漁場ノ探查適種漁具漁法ノ試験ヲ施行シ更ニ營業者ヲ誘導シテ漁場ノ擴張ヲ圖ルノ要アリ

ロ 優良漁船ノ普及ヲ圖ルコト

沖合遠洋漁業ヘノ進出ヲ促スト共ニ一面漁業ノ安全化ヲ期スル爲左ノ諸施設ヲ講ジ優良漁船ノ普及ヲ圖ルノ要アリ

- 1 各種漁業ニ適應スル優良漁船ノ船型其ノ他機關器具ノ標準ヲ定メ之ガ建造ヲ助成シテ其ノ普及ヲ圖ルコト
- 2 漁船ノ設計施工上ノ指導検査等ヲ爲スコト
- 3 主要漁港ニ漁船造船所及船用機關製作工場ノ設置ヲ助成シテ之ガ普及ヲ圖ルコト
- 4 船員養成ノ爲朝鮮水産會ヲシテ常設講習會ヲ開催セシムルコト
- ハ 漁港網ヲ完備シ且漁港施設ヲ擴充スルコト
- 朝鮮ニ於ケル漁港施設ハ漁業ノ現狀竝ニ今後益沖合及遠洋ニ進展セントスル趨勢ニ順應セザル狀況ナルニ鑑ミ急速ニ漁港網及避難港網ノ完成竝ニ漁港設備ノ充實ヲ期スルノ要アリ

ニ 沿岸漁場ノ保護ニ努ムルコト

沿岸漁場ハ沖合漁業及沿岸漁業自體ノ發達ニ伴ヒ其ノ生産概シテ漸減ノ傾向ニ在ルヲ以テ蕃殖保護ニ關スル基礎調査ノ擴充ト相俟テ水産動植物棲息蕃殖條件ノ人工的保護及改造施設ヲ積極的ニ獎勵スルノ要アリ

ホ 海難ノ防止竝ニ救済施設ヲ充實スルコト

過去十年間ノ漁船遭難數ヲ見ルニ實ニ内地ノ約五倍ノ遭難率ヲ示セルガ將來優良漁

船ノ普及ト港灣施設ノ充實トニ因リ大ニ緩和セラレベシト雖モ之ガ救済ハ一日モ忽諸ニ附シ難キ所ナルヲ以テ漁船保險制度又ハ之ニ代ルベキ漁船遭難救済施設ヲ實施スルノ要アリ

ニ 水産業及鹽業開發ノ爲干潟淺海及内水面ノ利用ヲ圖ルコト

朝鮮西海岸及南海岸ノ廣漠タル干潟地竝ニ之ニ接續スル淺海ノ利用方法ニ付テハ特ニ調査研究ヲ遂グ具藻類増殖ノ合理的經營方法ヲ講ジ又ハ工業用原料トシテ重要ナル鹽ノ供給ヲ潤澤ナラシムル爲鹽田ノ擴張ヲ爲ス等之ガ利用價值増進ノ方策ヲ講ズルノ外内水面ニ於ケル淡水魚増殖ノ普及ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 干潟淺海利用ニ關スル基礎的試驗調査ヲ遂グ之ガ開發ヲ圖ルコト

朝鮮ノ干潟淺海ハ具藻類ノ蕃殖ニ依ル利用範圍極メテ廣シト雖モ其ノ形態及土質ハ多種多様ニシテ之ガ獎勵指導ニハ明確ナル實際上ノ技術的根據ヲ必要トスルモ從來之ニ關スル施設ヲ缺クヲ以テ西南海岸夫々適當ノ地ニ水産試驗場所屬ノ干潟淺海利用研究所ヲ設置シ專ラ具藻類ノ蕃殖及蕃殖物ノ處理ニ關スル試驗調査ヲ遂グ斯業ノ

開發ヲ圖ルノ要アリ

□ 工業用原料鹽ノ増産ヲ圖ルコト

帝國ニ於ケル工業用原料鹽ノ需要ハ累年増加スト雖モ其ノ多クハ諸外國ヨリノ輸入ニ俟テツツアル狀況ナルヲ以テ近年臺灣及關東州ニ於ケル鹽田擴張竝ニ最近滿洲國渤海海岸ニ於ケル鹽田築造計畫ノ樹立ヲ見ルニ至リタルモ仍此等給源地ニ於ケル生産ヲ以テシテハ其ノ需要ヲ充スニ足ラザル狀況ニ在リ然ルニ朝鮮ニ於テハ食糧用鹽ノ自給自足ノ目途略確立シタルヲ以テ之ガ實現ヲ必スベキハ勿論尙相當廣キ鹽田適地ヲ政府ニ於テ保留シアルヲ以テ之ヲ開發シ工業用原料鹽ノ生産ヲ爲スノ要アリ

ハ 内水面ニ於ケル淡水水魚増殖ノ普及ヲ圖ルコト

河川湖沼ニ於ケル水産増殖施設ノ擴充ヲ爲シ農山村ニ於ケル保健食糧ノ給源竝ニ副業收入ノ増加ヲ圖ルノ要アリ

三 水産物ノ價值ノ増進ヲ圖ルコト

漁獲物ノ冷蔵冷凍及輸送ニ關シ適當ナル施設ヲ爲シ以テ保健食糧トシテ最モ適切ナル鮮魚及凍魚ノ供給ヲ圓滑ナラシムルト共ニ水産物ノ防腐及製造加工方法ヲ改善シ

其ノ利用價值ノ増進ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 漁獲物ノ保藏竝ニ配給機構ノ改善ヲ圖ルコト

沿岸都市ニ偏在スル製氷冷凍冷蔵施設ヲ主要漁業根據地ニ擴充シテ漁獲物ノ保藏ヲ完全ナラシメ且全沿岸ニ輸送網ヲ擴大スルト共ニ輸送船舶ノ鮮魚及凍魚ノ保藏設備ヲ改善シ之ガ輸送配給ヲ圓滑ナラシムルノ要アリ

□ 水産加工工業ノ改善ヲ圖ルコト

朝鮮ノ水産加工工業ハ品質ノ向上生産費ノ低減廢棄物ノ利用從來肥料ニ供セララルモノノ飼料化及食品化等改善ヲ要スル事項極メテ多キヲ以テ之ガ改善ニ關スル試驗機關ノ活動ト相俟テ左ノ事項ヲ實施スルノ要アリ

1 優良ナル水産加工機械ノ製造工業ノ發達ヲ圖ルコト

2 製造用鹽其ノ他ノ防腐劑ノ供給ヲ圓滑安價ナラシムルコト

3 良質製造用水ノ供給製品搬出輸送施設ノ改善其ノ他優秀職工ノ養成等工場經營ノ合理化ニ必要ナル施設ヲ擴充スルコト

第二 礦物資源及動力資源ニ關スル件

第二 鑛物資源及動力資源ニ關スル件

朝鮮ニハ豊富ナル鑛物資源及動力資源存シ其ノ開發利用ノ適否ハ國力ノ伸張ト國防ノ完備ニ影響スル所甚大ナルヲ以テ一層資源開發ノ促進及經營ノ合理化ヲ期スル趣旨ノ下ニ更ニ大要左ノ方策ヲ採ルノ要アルモノト認ム

一 鑛物資源ノ調査探鑛ニ關スル施設ヲ充實シ之ガ開發ヲ促進スルコト
朝鮮ニハ埋藏鑛物ノ種類頗ル多ク殊ニ本邦全體トシテ産額僅少ナル各種重要鑛物多量ニ賦存スル見込ナルヲ以テ更ニ調査機關ヲ整備スルト共ニ探鑛獎勵施設ヲ擴充シ以テ各種鑛物資源ノ開發ヲ促進スルノ要アリ

施設計畫

イ 地質調査ニ關スル機關ノ擴充ヲ圖ルコト
現在地質調査所ハ規模極メテ狭少ニシテ時代ノ要求ニ副ハザルヲ以テ特ニ緊要ト認ムル地域ヲ選定シ此ノ地方ノ調査ヲ可及的速ニ完結スルヤウ施設ヲ擴充スルノ要アリ

ロ 鑛業研究ニ關スル機關ノ擴充ヲ圖ルコト

燃料、選鑛研究所ノ現在設備ヲ以テシテハ鑛業試驗研究ノ萬全ヲ期シ難キヲ以テ機構ノ充實刷新ヲ圖ルノ外試驗設備ヲ整備シ且一部ハ之ヲ一般ニ開放シテ營業者ノ研究ヲ獎勵スル等速ニ内容ヲ擴充スルノ要アリ

ハ 重要鑛物資源ノ調査ヲ施行スルコト

鉛、錫、アンチモン、水銀、亜鉛、クロム、マンガ、タンゲステン、水鉛、ニツケル、白金、雲母、石棉等我國不足鑛物資源及銅、鐵、硫化鐵等特ニ必要ト認ムル鑛物資源ニ付鑛石ノ種類及成分埋藏量、採掘可能量等ヲ調査闡明スルト共ニ進ンデ起業計畫ヲ調査立案シ之ガ開發ノ促進ヲ圖リ以テ我國資源ノ統制運用計畫遂行達成ニ資スルノ要アリ

ニ 重要鑛物ノ探鑛ヲ獎勵スルコト

朝鮮ノ鑛業ハ未ダ概シテ規模狹少ニシテ探鑛充分ナラズ爲ニ開發ヲ誤リ或ハ開發ヲ不可能ニ陥ラシムルモノアルヲ以テ差向キ銅鑛、鉛鑛、錫鑛、アンチモン鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、クロム鑛、マンガ鑛、タンゲステン鑛、水鉛鑛、ニツケル鑛、黑鉛、雲母、石棉、明礬、石、螢石、マグネサイト等ノ探鑛ニ對シ金探鑛獎勵施設ニ準ジ之ガ獎勵ノ方法ヲ講ズルノ要アリ

二 鑛業企營ノ合理的發展ノ方策ヲ講ズルコト

鑛業企營ヲ合理化シ以テ鑛利ノ保全及投資ノ安全ヲ期スル爲資本若ハ起業ノ合同、販賣ノ協定等適當ナル統制ヲ行フト共ニ斯業ノ圓滿ナル發展ヲ期スル爲適當ナル助成ノ方法ヲ講ズルノ要アリ

施設計畫

イ 鑛業企營ノ統制ヲ圖ルコト

無謀ナル市場ノ競争ニ依リテ亂掘ノ弊ヲ釀成シ或ハ需要ノ興廢常ナク事業ノ安定ヲ缺キ又一地方ニ小鑛山群立シテ投資ノ重複ヲ來ス等ハ共ニ鑛業ノ合理的發展ヲ阻害スルコト甚シキヲ以テ速ニ各種鑛業ノ實情ヲ調査研究シテ鑛業ノ合同又ハ鑛產物販賣ノ協定等適當ナル統制ヲ圖ルノ要アリ差向キ檢討善處スルノ要アルモノ左ノ如シ無煙炭鑛業合同ノ完成

鐵、明礬石等軍需鑛物ニ關スル小規模鑛業經營ノ統制

同一地帯ニ群立スル小規模金鑛業ノ合同又ハ經營ノ統制

黑鉛、タンゲステン、水鉛及螢石鑛業等ノ鑛產物販賣ノ統制

□ 生産費輕減ノ方法ヲ講ズルコト

鑛業ノ採算ヲ向上セシメ以テ起業ノ促進ヲ圖ル爲鑛業用道路ノ新設改修、鐵道及船舶運賃並ニ動力料金低減ノ方法ヲ講ズルノ要アリ

ハ 鑛夫ノ保護ニ關スル制度ヲ整備スルコト

鑛夫ハ他ノ工場勞働者ニ比シ一層不衛生且危險ニ曝サルルコト多ク殊ニ最近鑛業上ノ變災頻發シ罹災者ノ扶助救恤ヲ要スル者漸ク多キヲ加フルノ傾向ニ在リ之ガ保護ニ關スル基準ヲ示シテ統一ヲ圖ルコトハ勞資ノ協調融和ヲ招來スル所以ナルヲ以テ速ニ朝鮮ノ實情ニ適應スル鑛夫勞務扶助ニ關スル規則ヲ制定スルノ要アリ

ニ 鑛業警察ニ關スル制度ヲ整備スルコト

鑛業施設ノ完備ヲ期シ公害ヲ豫防シ從業ノ安全ヲ期スルコトハ鑛業ノ合理的發展ヲ助長スル所以ナルヲ以テ速ニ朝鮮現下ノ鑛業事情ニ適應スル鑛業警察ニ關スル規則ヲ制定スルノ要アリ

三 茂山鐵山ノ開發ヲ急速ニ實施スルコト

本邦製鐵業ノ現狀ニ鑑ミ埋藏最豊富ナル茂山鐵山ノ開發ヲ圖ルハ最モ急務ナリト認

ムルニ付速ニ其ノ開發施設ヲ整備スルノ要アリ

施設計畫

イ 茂山清津間鐵道ノ擴張整備ヲ圖ルコト

現在鐵道ヲ以テシテハ輸送力不十分ナリト認ムルニ付古茂山茂山間鐵道軌間ノ擴張、勾配ノ修正或ハ待避線ノ増設及機關車、貨車ノ増備等茂山清津間鐵道輸送力ヲ擴張整備スルノ要アリ

ロ 清津港ニ於ケル船車連絡施設ノ擴充整備ヲ圖ルコト

清津港ニ於ケル現在船車連絡施設ハ不十分ナリト認ムルニ付茂山鐵山開發計畫ニ順應シ之ガ擴充整備ノ方法ヲ講ズルノ要アリ

ハ 貧鐵鑛選鑛事業ノ起業促進ヲ圖ルコト

茂山鐵鑛ハ大部分貧鐵鑛ナルヲ以テ之ガ選鑛事業ノ起業促進ノ方法ヲ講ズルノ要アリ

ニ 製鐵事業ヲ起業セシムルコト

茂山鐵鑛ハ採算上山元附近ニ於テ製鍊スルヲ適當ト認ムルニ付北鮮地方適當ノ地ニ銑鋼一貫作業ヲ行フ製鐵事業ヲ起業セシムルノ要アリ

四 發電水力ノ開發ヲ促進スルト共ニ電力統制計畫ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト
朝鮮ニ於ケル新興産業ノ全面的展開ニ應ジ特ニ發電水力ノ開發ヲ促進スルト共ニ既定ノ電力統制計畫ノ趣旨ヲ達成スルガ爲ニ必要ナル施設ヲ講ズルノ要アリ

施設計畫

イ 國境河川ノ發電水力調査ヲ行フコト

鴨綠江及豆滿江ノ本流ニ於ケル豐富ナル發電水力(百萬キロワット)以上ノ見込ノ開發ヲ圖ルコトハ日滿産業開發上最モ緊要トスル所ナルヲ以テ之ガ發電水力ニ關スル調査ヲ施行スルノ要アリ

ロ 發電資源ノ保全ヲ圖ルコト

1 貯水池用地ノ投機的ノ地價昂騰ヲ防止スルコト

發電計畫ニ於テ發電水力ノ貯水池ト爲ルベキ土地ニ付テハ其ノ地價ノ投機的値上リヲ防止スル爲適當ナル對策ヲ講ジ以テ發電水力ノ開發ニ支障ナカラシムルノ要アリ

2 發電用炭田ノ保全ヲ圖ルコト

發電ニ利用スルヲ適當トスル炭田ニ付テハ之ヲ國ニ於テ保留シ又ハ其ノ開發ニ當リ必要ナル條件ヲ附シ將來發電ニ支障ナカラシムルノ要アリ

第三 工業ニ關スル件

第三 工業ニ關スル件

朝鮮ノ工業政策ハ現下ノ國際情勢及鮮内ノ産業經濟發展ノ動向ヨリ稽ヘ内鮮滿産業ノ調整ヲ保チ一層斯業ノ積極的振興ヲ期スル趣旨ノ下ニ更ニ大要左ノ方策ヲ採ルノ要アルモノト認ム

一 工業ノ統制ニ關シテハ鮮内各般ノ事情竝ニ内地及滿洲ニ於ケル工業トノ關係ヲ考慮シ適當ナル施策ヲ講ズルコト

朝鮮ニ於ケル各種工業ハ著シク勃興ノ機運ニ向ヒ漸次發展ノ道程ニ在ルガ此等企业ノ濫設ノ弊ヲ防止シ他而内地工業トノ調整的發展ヲ期スル爲適當ナル施策ヲ講ズルノ要ヲ認ムルモ朝鮮ニ於ケル工業ハ未ダ發展ノ途上ニ在ルヲ以テ直ニ高度ノ段階ニ達セル内地ニ於ケル工業ト一律ニ之ヲ統制シ得ザル現狀ニ鑑ミ内地ト關聯アル工業ニ付テハ特ニ當該生産品ノ生産及販賣條件ヲ較量ノ上適地適業ノ趣旨ニ則リ個々ノ事態ニ應ジ適當ナル統制上ノ對策ヲ講ジ尙滿洲ト關聯アル工業ニ付テハ之トノ調整ヲモ考慮シ以テ此等相互ノ協調ヲ保チ其ノ他ノ工業ニ付テハ鮮内生産者及消費者ノ

利害ヲ考慮ノ上適宜之ガ統制ヲ行フノ要アリ

施設計畫

イ 重要産業ノ統制ニ關スル法律ノ實施ニ付テハ其ノ時期方法ニ付慎重考慮スルコト

重要産業ノ統制ニ關スル法律ノ實施ニ付テハ其ノ時期ニ付慎重考慮ノ要アルモ之ヲ實施スル場合ニ於テハ大要左ノ方法ニ依ルヲ適當ト認ム

1 指定業種

朝鮮ニ於テ指定スベキ業種ハ大體其ノ生産能力ガ鮮内ノ需要ヲ充スニ至リタルモノ又ハ之ヲ超ユルモノニシテ統制ヲ必要トスル状態ニ在ルモノ竝ニ2 運用方針ニ述ブル趣旨ニ則リ内外地ヲ一貫シテ統制ヲ要スルモノニ付朝鮮總督順次之ヲ指定スルコト

2 運用方針

帝國經濟圈内ニ於テ其ノ生産及販賣條件ヲ較量ノ上適地適業ノ分布開發ヲ圖リ帝國經濟力ノ充實及對外競争力ノ強化ヲ期スルト共ニ一面生産者及消費者ノ利益ノ調和ヲ圖ル趣旨ノ下ニ之ガ運用上遺憾ナキヲ期スルコト

ロ 中小工業ノ統制ニ關スル法令ヲ制定スルコト

中小工業ノ統制ニ關シテハ速ニ工業組合令ヲ制定シ組合組織ニ依リ自治的統制ヲ圖ラシメ必要ニ應ジ統制命令ヲ發動シ得ルコトトシ以テ斯業ノ健全ナル發展ヲ期スルノ要アリ

ハ 内外地及滿洲國トノ連絡方法ヲ講ズルコト

内外地及滿洲國間産業ノ調整的發展ヲ期スル爲營業者ヲシテ自治的ニ連絡協調ヲ圖ラシムルハ固ヨリ必要ニ應ジ關係官廳間ノ連絡協議ニ依リ相互ノ協調ヲ促進スルノ要アリ

ニ 國策上重要ナル工業ニ付テハ特別ノ振興策ヲ講ズルコト

國策上特ニ國防上ノ見地ヨリ重要ト認ムル工業ニ付テハ現下ノ情勢ニ鑑ミ特別ノ振興策ヲ講ジ以テ急速且積極的ニ其ノ發達ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

朝鮮ノ地位竝ニ資源其ノ他ノ企業條件ニ鑑ミ内地及滿洲ニ於ケル對策ト聯繫ヲ保テ製鐵業、輕金屬工業、造船業、自動車及飛行機組立修理工業、鑛業、川機械製造工業等ノ振興

ヲ圖ルノ外帝國液體燃料政策ノ一部ヲ分擔シテ計畫的ニ石炭系液體燃料工業及燃料アルコール工業ノ確立ヲ期スル等ノ爲大要左ニ掲グル施設ヲ急施スルノ要アリ

1 必要ニ應ジ獎勵金ヲ交付スルノ外事業ニ要スル動力料金及運賃ノ輕減、運輸施設ノ整備、原料ノ確保、用水調査等ニ付出來得ル限りノ特典又ハ便宜ヲ與フルコト

2 事業ニ對スル認可制ノ設定、事業ノ爲必要ナル土地收用權ノ付與、租税ニ關スル特典及保護關稅ノ設定等ニ付テハ其ノ事業ニ應ジ機宜ノ方策ヲ講ズルコト

3 薪炭自動車及電氣自動車ノ普及ヲ獎勵スルコト

三 工業ノ合理的分布ヲ圖ルコト

工業地帯タルノ素地ヲ有スル地方ニ對シテハ豫メ適當ナル施策ヲ講ジ以テ工業ノ成立及經營ヲ容易且經濟的ナラシムルト共ニ右工業地帯以外ニ於テ有利ナル企業條件ヲ有スル地方ニ對シテモ適當ナル施設ヲ講ジテ工業ノ地方的發達ヲ促スノ要アリ

施設計畫

イ 工業地帯ヲ設クルコト

工業ノ成立及經營ヲ容易且經濟的ナラシムル爲工業地帯ノ地價ノ暴騰ヲ抑制スルニ

必要ナル方途ヲ講ズルノ外交通、運輸、電力、用水、産業教育等ニ關スル集約且合理的施設ヲ爲スノ要アリ

ロ 工業ノ地方分散化ニ關スル調査ヲ爲スコト

地方化ノ可能ナル工業ニ付テハ可及的之ガ地方分散ヲ圖ル爲其ノ種目、地域及施設スベキ事項ニ付調査研究ヲ遂ゲ其ノ結果ニ基キ適當ナル施設ヲ爲スノ要アリ

四 中小工業ノ振興ヲ期シ併セテ大工業トノ調整的發達ヲ圖ルコト

朝鮮ニ於ケル中小工業ハ未ダ不振ノ域ヲ脱セザルガ工業全般ノ健全ナル發展上竝ニ現下ノ社會的情勢ニ鑑ミ今後一層中小工業ノ振興ト副業的工業ノ普及ニ努ムルノ要アルト共ニ一面大工業ト此等工業トノ調整ヲ圖リ以テ兩者ノ併存的發展ヲ期スルノ要アリ

施設計畫

イ 工業組合制度ヲ設クルコト

現下中小工業者ノ不振ナル狀況ニ鑑ミ工業組合制度ヲ設ケ其ノ共同施設ニ依リ加工、販賣、購買及利用等ノ經濟事業ヲ行ハシメ以テ大企業ノ有スル利便ヲ享受セシムル外

検査、統制、金融ノ施設等ニ依リ業界ノ改善發達ヲ圖ルノ要アリ

ロ 資金融通損失補償制度ヲ設クルコト

金融機關ノ中小工業者等ニ對スル資金ノ融通ニ付テハ其ノ損失ニ對シ一定限度ノ補償ヲ爲スヤツ損失補償制度ヲ設ケ以テ事業資金融通ノ阻滯ヲ圖ルノ要アリ

ハ 助成施設ヲ擴充スルコト

中小工業ノ振興上及副業的工業ノ普及上必要ナル經費ニ付テハ一層普遍的ニ助成金ヲ交付スルコトトシ尙助成業種ノ選定ニ當リテハ特ニ大工業トノ關聯ヲ考慮シ兩者ノ調整的發達ヲ期スルノ要アリ

五 勞働効率ノ昂上ト勞資間ノ融和ヲ圖ルコト

勞働効率ノ昂上ヲ促スト共ニ勞資間ノ融和ヲ圖リ以テ工業ノ順調ナル發達ニ資スルノ要アリ

施設計畫

イ 工場勞働ニ關スル調査ヲ爲スコト

勞働効率ノ昂上、勞資間ノ融和等ニ關シ適當ナル方策ヲ樹立スル爲工場勞働ニ關スル

基本調査ヲ爲スノ要アリ

ロ 勞資間ノ融和ニ努ムルコト

工場主ヲシテ一層勞働者ノ保健、慰安、教養共ノ他生活ノ向上ト能率ノ増進等ヲ圖ルニ必要ナル施設ヲ講ゼシメ一面勞働者ノ自律精神ノ涵養ニ努ムルノ要アリ

第四 商業及貿易ニ關スル件

第四 商業及貿易ニ關スル件

朝鮮ニ於ケル産業發達及對外貿易ノ趨勢特ニ朝鮮ガ滿洲國輸出入ニ付占ムル地位ニ鑑ミ今後一層輸出入貿易竝ニ通過貿易ノ伸展ヲ期スルト共ニ對内地貿易及鮮内商取引ニ付テハ其ノ現況ニ稽ヘ之ガ合理的改善ヲ圖ル趣旨ノ下ニ更ニ大要左ノ方策ヲ採ルノ要アルモノト認ム

一 對外貿易竝ニ通過貿易ノ振興ヲ圖ルコト
輒近鮮内産業ノ發展ニ伴ヒ鮮産品ノ滿洲國、中華民國、南洋、印度其ノ他諸外國ニ進出ノ氣運著シク増大シツツアル情勢竝ニ滿洲トノ通過貿易ノ將來性等ニ鑑ミ此ノ機ヲ逸セズ輸出貿易ノ促進及新市場ノ開拓ヲ圖リ輸出入竝ニ通過貿易ニ必要ナル諸施設ヲ整備擴充シテ此等目的ノ達成ニ努ムルト共ニ一面國際貿易ノ現況竝ニ其ノ趨向ニ鑑ミ内外地間相應シテ適當ナル貿易ノ統制ヲ圖リ一層之ガ圓滿ナル伸展ヲ期スルノ要アリ

施設計畫

イ 海外直通航路ヲ設定スルコト

海外輸出品ノ大部分ハ今仍内地經山ノ状態ニ在リテ貿易上甚シク不利不便ヲ免レザルニ依リ現航路ノ對滿北支上海線等ヲ擴充スルノ外南支南洋印度等ヘノ直通航路ヲ設定スルノ要アリ

ロ 輸出港ニ於テ集荷施設ヲ爲スコト

海外直通航路ヲ整備擴充シテ多數船舶ノ寄港ヲ促シ以テ直取引ヲ促進スル爲輸出好製品ノ海港ニ於ケル集荷ニ對シ左ノ施設ヲ爲スノ要アリ

1 物品ヲ指定シ輸出港ニ於テ成ルベク集合検査ヲ爲スコト

2 輸出港ニ於ケル集荷ヲ助成スル爲必要ニ應ジ出荷地ヨリ輸出港ニ至ル鮮内鐵道貨物運賃ノ特定率ヲ設クルコト

3 營業者ヲシテ出荷組合ヲ組織セシメ之ニ對シ出荷獎勵金ヲ交付スル等助成ノ方法ヲ講ズルコト

ハ 滿洲トノ通過貿易促進ノ爲關係諸港ニ必要ナル諸施設ヲ急速ニ完備スルコト

清津羅津雄基鎮南浦等ノ諸港ハ對滿貿易ノ吞吐港トシテ極メテ重要ナル使命ヲ有スル所之ガ機能ヲ發揮セシムル爲相當大ナル規模ノ下ニ各般ノ計畫ヲ樹立シ自由港制

ノ採用等必要ト認メラルル諸施設ヲ可及的速ニ實行スルノ要アリ

ニ 對滿關稅制度ノ調整ニ付考慮スルコト

現行關稅制度ハ鮮滿貿易ノ實情ニ副ハザル憾アルヲ以テ鮮滿双方ノ輸入稅率ノ低減保稅制度ノ整備其ノ他稅關取扱規定ノ合理化等全般のニ之ガ整備ニ付考慮ヲ重ネ以テ鮮滿貿易ノ發展助長ヲ期スルノ要アリ

ホ 輸出補償制度ヲ設クルコト

海外新市場ノ開拓ヲ容易ナラシムル爲其ノ爲替取組ニ對シ一定限度ノ補償ヲ爲サヤウ輸出補償制度ヲ設ケ業者ノ積極的活動ヲ促スノ要アリ

ヘ 國外事況ヲ調査シ商取引ノ斡旋ヲ爲スコト

輸出貿易ノ伸展ヲ期スル爲常時國外事場ニ於ケル商況ヲ調査通報シ又ハ取引ノ仲介斡旋ヲ爲ス爲左ノ施設ヲ講ズルノ要アリ

1 滿洲國及北支那ニ本府官吏ヲ駐在セシメ其ノ他ノ樞要ノ地ニ於テハ適當ナル在留者ニ囑託シ商況ノ調査通報生産品ノ紹介業者ノ指導等ニ當ラシムルコト

2 從來國庫ノ補助ニ依リ朝鮮貿易協會ニ於テハ主トシテ對滿貿易ニ關スル紹介斡旋ヲ爲シ來レルガ更ニ之ヲ擴充強化シテ南北支那及南洋地方ニ積極的活動ヲ爲サシ

ムルコト

3 滿洲國其ノ他適當ノ地ニ朝鮮物産ノ商品陳列館ヲ設置スルコト
ト 海外輸出ニ付テハ内地相提携シ之ガ統制ヲ圖ルコト
海外輸出品ノ生産者ヲシテ工業組合又ハ水産組合等適當ナル團體ヲ組織セシメ内地
營業者ト相呼應シテ輸出統制ヲ爲サシムルノ要アリ
チ 輸出品検査制度ヲ擴充スルコト
輸出品ノ海外市場ニ於ケル弊價ノ維持向上ヲ圖ル爲必要ニ應ジ漸次輸出品検査ニ關
スル制度ヲ擴充スルノ要アリ
リ 貿易行政ノ刷新ヲ圖ルコト
海外市況ノ調査通報、輸出品ノ検査統制、新販路ノ開拓其ノ他各般ノ貿易行政事務ヲ掌
ラシムル爲本府ノ機構ヲ擴充シ貿易行政ノ刷新ヲ圖ルノ要アリ
又 中小工業ノ生産品ニ對スル輸出貿易ニ關シテハ一層ノ調査研究ヲ遂グ特殊ノ組
織ヲ設ケ之ヲ指導獎勵スル方針ヲ採ルコト
中小工業ノ生産品ニ對スル輸出貿易ニ付テハ内地ニ於ケル之ガ事例ニ鑑ミ豫メ一定
ノ指導方策ヲ樹立シ以テ其ノ堅實ナル伸展ヲ期スルノ要アリ

二 對内地貿易ノ改善伸展ヲ圖ルコト

朝鮮貿易ノ大宗タル對内地貿易ハ移出入共ニ逐年漸増ノ趨勢ヲ示セルガ今後一層朝
鮮ノ産業經濟ノ實情ノ紹介宣傳ニ努メ一面内地市場ノ調査ヲ爲シテ相互ノ認識ヲ昂
ムルト共ニ出荷ノ統制並ニ運輸及商取引ノ改善等適當ナル施策ヲ講ジ以テ移出入貿
易ノ改善伸展ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 内地ニ於ケル紹介幹旋機關ヲ擴充スルコト

内地樞要都市ニ商工獎勵館ノ分館ヲ漸次増設シ且既存ノ販賣幹旋機關ヲ改組擴充シ
テ之ヲ商工獎勵館分館ニ併置シ以テ商取引ノ幹旋指導ニ當ラシムルト共ニ内地ニ於
ケル博覽會、共進會等ニ對スル參同及巡回見本市施設等ヲ擴充シ以テ産業事情ノ紹介
及商取引ノ促進ヲ圖ルノ要アリ

ロ 出荷ノ統制ヲ圖ルコト

販賣及運輸ノ合理化ヲ圖ル爲出荷組合ヲ設置セシメ尙必要ニ應ジテハ該組合ニ對ス
ル法令ヲ制定シ以テ秩序アル出荷ヲ爲サシムルノ要アリ

三 中小商業經營ノ合理的改善策ヲ講ズルコト
現下中小商業者ハ概ネ大資本ヲ有スル販賣機關ノ進出金融ノ梗塞同業者間ノ無謀ナル競争經營ノ不合理等ノ爲不振ノ状態ニ在ルヲ以テ之ガ經營ノ合理的改善策ヲ講ズルノ要アリ

施設計畫

- イ 商業組合制度ヲ設クルコト
現下中小商業者ノ不振ナル狀況ニ鑑ミ商業組合制度ヲ設ケ其ノ共同施設ニ依リ商品ノ仕入保管運搬等ノ經濟事業ヲ行ハシメ以テ大企業ノ有スル利便ヲ享受セシムルノ外組合員ノ營業ニ關スル統制並ニ指導研究調査及金融ノ施設等ニ依リ業界ノ改善發達ヲ圖ルノ要アリ
- ロ 資金融通損失補償制度ヲ設クルコト
金融機關ノ中小商業者等ニ對スル資金ノ融通ニ付テハ其ノ損失ニ對シ一定限度ノ補償ヲ爲スヤツ損失補償制度ヲ設ケ以テ事業資金融通ノ圓滑ヲ圖ルノ要アリ
- ハ 商工會議所ヲシテ濃厚ナル指導ヲ加ヘシムルコト

商工會議所ニ中小商工業者ノ經營ノ改善合理化ニ關スル指導者ヲ置キ積極的ニ之ガ指導ヲ加ヘシムル爲之ニ對シ本府ハ相當助成ヲ爲スノ要アリ

第五 交通ニ關スル件

第五 交通ニ關スル件

朝鮮ノ交通政策ハ現下ノ産業及貿易ノ急激ナル伸展ノ趨向ニ順應シ今後一層之ヲ助長促進スル趣旨ノ下ニ更ニ大要左ノ方策ヲ採ルノ要アルモノト認ム

一 資源及産業開發ノ見地ヨリ鮮内交通施設ノ普及改善ヲ圖ルコト

朝鮮ニ於ケル鐵道、道路、河川及沿岸航運、空運並ニ小運送施設ハ未ダ充實スルニ至ラズ朝鮮現下ノ産業及貿易ノ進度ニ副ハザル憾アルヲ以テ此ノ際急速ニ此等各種交通施設ノ普及完成ヲ圖ルト共ニ其ノ既設施設ノ改良整備ヲ圖リ運賃料金を合理化シ以テ國內資源ノ開發ト産業經濟ノ伸展ニ資スルノ要アリ

施設計畫

イ 鐵道網ノ普及ヲ圖ルコト

朝鮮ニ於ケル鐵道ハ普及程度極メテ貧弱ニシテ之ガ爲半島各地ニ於ケル豊富ナル資源ハ空シク死藏セラレツツアル現狀ニ鑑ミ官私鐵ノ既定未設線一千七百軒ノ外更ニ新規計畫三千五百軒ヲ可及的速ニ建設シ以テ資源及産業ノ開發ニ資スルノ要アリ而

シテ之ガ建設ハ國ニ於テ行フノ外既設私設鐵道中國營代行線ニ當ルモノハ既定ノ方針ニ從ヒ國ニ買收スルト共ニ補助金ノ許ス限リ私設鐵道ヲシテ之ニ當ラシムルノ要アリ

□ 既設鐵道ノ改良ヲ圖ルコト

軌近時勢ノ進運ニ伴ヒ鐵道ハ益高速ニシテ且輸送力大ナル列車ノ運轉ヲ必要トスルノ趨勢ニ向ヒツツアルヲ以テ更ニ速ニ主要幹線就中京釜京義兩線ノ複線施設線路強度ノ増大操車場及海陸連絡施設ノ整備工場ノ新設及擴充其ノ他單線區間ニ於ケル信號所ノ設置及複線區間ニ於ケル自働信號裝置ノ新設等ヲ行ヒ車輛ノ增備改良ト相俟テ輸送力ノ増大並ニ速度ノ昂上ヲ圖ルノ要アリ

ハ 鮮滿鐵道間ニ於ケル運營ニ付更ニ一層緊密ナル連絡協調ヲ圖ルコト

鮮滿鐵道間ノ連絡協調ニ付テハ從來ニ於テモ相當ノ程度ニ行ハレ來リ居レルモ現下ノ特殊情勢ニ對應スルガ爲ニハ運賃並ニ輸送方法ニ關シ更ニ一段ノ協調統制ニ努ムルノ要アリ

ニ 小運送制度ノ改善並ニ之ガ料金ノ合理化ヲ圖ルコト

朝鮮ニ於ケル小運送ハ先年ノ運送合同以來漸次改善ノ實ヲ擧ゲ居レルガ最近内地ニ

於ケル小運送改善着手ニ呼應シ更ニ一層ノ施設改善及運賃料金ノ低下ニ努メ以テ産業ノ開發ニ資スルノ要アリ

ホ 自動車交通事業ニ對シ補助金交付制度ヲ設クルコト

鐵道分布密度ノ稀薄ナル朝鮮ニ於テハ新興交通機關タル自動車ノ擴充助成ヲ圖ルコトハ現下緊要ノ事タリ鮮内奧地國境地方ニ在リテハ産業ノ開發上或ハ治安維持ノ關係等ヨリ觀ルモ自動車交通事業ノ普及發達ノ促進ヲ圖ル必要更ニ大ナルモノアルニ拘ラズ現下ノ交通量ハ未ダ以テ企業利益ヲ確保スルニ足ラズ尠クモ開業後數年間補助金ヲ交付スルニ非ザレバ事業ノ發達ヲ期待シ難キ實情ニ在ルヲ以テ自動車交通事業ニ對シテモ私鐵同様ノ趣旨ニ據リ補助金交付ノ途ヲ開キ以テ鮮内産業開發ノ先驅的機能ヲ完カラシムルノ要アリ

ヘ 國產自動車ノ使用ヲ獎勵スルコト

既ニ自動車製造事業法ノ施行ヲ見自動車製造許可會社決定セラレ國產自動車ノ製作ニ拍車ヲ掛クルコトトナリタルガ此ノ際自動車運輸業者ニ國產自動車又ハ之ニ準ズルモノノ使用ヲ勸奨シ以テ國內ニ於ケル自動車製造業ヲ助長スルト共ニ外國品ノ輸入ヲ防ギ兼ネテ自動車運輸ノ發達ニ資スルノ要アリ

ト 道路網ノ普及ヲ圖ルコト

今後改修及改良ヲ要スル道路ハ箇所數約五千、延長約一萬三千軒ニ達スルノ狀況ナルガ相當ノ國庫補助ノ下ニ之ヲ主トシテ道ニ於テ施行シ以テ資源及産業ノ開發ニ資スルノ要アリ

チ 河川航運施設ノ擴充ヲ圖ルコト

鮮内主要河川ニシテ水運施設ノ擴充ヲ要スルモノハ河川アルガ之ヲ緩急ニ應ジ國費ヲ以テ可及的速ニ改修シ以テ資源及産業ノ開發ニ資スルノ要アリ

リ 離島及沿岸幹線航路航船ノ優秀化ヲ圖ルコト

一般陸上交通施設ノ便充分ナラザル沿岸各地方並ニ船便ニ依ルノ外他ニ方法ナキ離島ニ對スル航運施設ノ中地方産業經濟ニ至大ナル關聯ヲ有スル沿岸幹線航路ニ優秀船ヲ配備セシムル爲一定條件ノ下ニ之ガ建造ヲ爲シタル者ニ對シ助成金ヲ交付スルノ要アリ

又 空運施設ノ擴充ヲ圖ルコト

鮮内ニ於ケル既設航空諸施設ノ擴充ヲ圖ルノ外北鮮及南鮮地方ニ定期航空ヲ開始スルト共ニ日本海橫斷ノ航空交通ノ安全確保ヲ期スル爲必要ノ地ニ飛行場及不時着陸

場並ニ夜間航空標識ノ新設及擴充ヲ圖リ必要ノ場合ニ於テハ鮮内民間航空事業ニ對シ助成施設ヲ擴充スルノ要アリ

ル 航路標識設備ノ完成ヲ急速ニ圖ルコト

朝鮮ニ於ケル航路標識設備ノ現狀ハ甚ダ不充分ニシテ海上航行上不安ニ堪ヘザルモノアリ急速ニ之ガ増設並ニ設備ノ完備ヲ圖ルノ要アリ

二 各種交通機關ノ統制ヲ圖ルコト

鐵道、軌道、自動車及航運機關ニ付テハ朝鮮現下ノ實情ニ鑑ミ各其ノ機關ノ使命、分野ヲ定メ一定ノ政策ノ下ニ合理的ニ之ガ統制運營ノ實ヲ舉グ以テ競合又ハ二重投資等ヲ防止シ其ノ堅實ナル發達ヲ期スルノ要アリ

施設計畫

イ 鐵道、軌道及自動車網計畫ノ調査ヲ爲スコト

今後二十年後ヲ目標トシ朝鮮ニ於ケル鐵道、軌道及自動車網ノ調査事業ヲ促進シ大局上理想的ナル鐵道、軌道及自動車網ヲ確立シ將來ニ於ケル此等交通機關ノ施設計畫ノ基準タラシメ以テ二重投資ノ弊ヲ除キ且施設ノ調和ヲ圖ラシムルノ要アリ

□ 沿岸航路ニ於ケル競争ヲ排除シ經營ノ安定ヲ圖ルコト
 近時沿岸航路ノ發達ニ伴ヒ業者ノ對立競合ヲ惹起シ其ノ圓滿ナル發達ヲ阻害シ居レ
 ル憾ナキニ非ザルヲ以テ適當ナル法規ヲ制定シテ之ガ統制ヲ圖リ經營ノ基礎ヲ安定
 セシムルノ要アリ殊ニ沿岸旅客運送ニ對シテハ許可制トシ使用船舶ノ改善ト安全ヲ
 期スルノ要アリ

ハ 内鮮海事法規ノ統一ヲ圖ルコト

現在内鮮間ニ於テ其ノ海事法規ノ法域ヲ異ニスル結果海運業者ノ蒙ル不便尠カラズ
 特ニ朝鮮海運ノ伸暢ヲ著シク阻害シ居ルノ憾アルヲ以テ速ニ之ガ統一ヲ圖ルノ要ア
 リ

三 對外航路ノ擴充ヲ圖ルコト

朝鮮ノ地理的優位性ニ鑑ミ朝鮮在來ノ主要物産ノミナラズ新興工業品ノ商圏擴大及
 販路開拓ノ爲之ガ一大消費市場ナル滿洲國、中華民國、南洋等ニ直通定期航路ノ擴充ヲ
 圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 上海航路ノ擴充ヲ圖ルコト

朝鮮ノ對上海交易ハ近時鮮内産業ノ異常ナル振興ニ伴ヒ益之ガ助長ノ必要性ヲ増大
 スルニ至レル所現施設本府命令航路朝鮮上海線(使用船千五百噸級船一隻航海回數月
 一回以上年二十回以上)ニ依リテハ未ダ施設不充分ニシテ之ガ擴充ノ要アルノミナラ
 ズ最近頓ニ情勢ノ變化ヲ示シツアル北鮮ト上海トノ交易助長上支障尠シトセザル
 憾アルヲ以テ之ガ施設ヲ擴充シ西鮮上海線及北鮮上海線ヲ併設スルノ要アリ

□ 北支那航路ノ擴充ヲ圖ルコト

滿洲國ノ成立ヲ契機トスル北支情勢ノ好轉ハ鮮内産業ノ飛躍的伸展ト相俟テ朝鮮ト
 北支(青島、天津)トノ交易ノ緊密性ヲ著シク増大シ益之ガ助長ノ必要アルニ至レル所現
 施設本府近海命令航路朝鮮北支那線(所謂青島航路)使用船千噸級船一隻航海回數月二
 回以上年二十八回以上)及寄港命令航路大連天津線(使用船千噸級船一隻寄港回數月二
 回以上年二十七回以上)ヲ以テシテハ施設充分トナシ難キ實情ニ鑑ミ兩航路共之ヲ近
 海命令航路トシ各之ガ施設ヲ倍加スルノ要アリ

ハ 南洋共ノ他ノ對外航路ヲ開設スルコト

近時朝鮮特有ノ工業條件ハ對外輸出ヲ目的トスル新興産業ノ據頭ヲ著シク促進シ之

ニ伴ヒ南洋ヲ始メ外國各地トノ交易ニモ相當利口スベキモノアルニ至レル所現在此等對外輸出ハ主トシテ内地伸繼ニ依存シ繼カニ一、二船主ノ自營的臨時配船ニ俟ツノ外ナク而モ直接ニ朝鮮ノ利益ヲ代表スルモノニ非ザルヲ以テ之ガ産業交易ノ助長上支障尠カラザル狀況ニ在ルモ朝鮮ノ現狀ハ本府命令航路トシテ單獨ニ朝鮮ト此等諸外國ヲ連絡スル航路ノ開設ニ難色アルヲ以テ第一期計畫トシテハ南洋、印度航路、第二期計畫トシテハ北米航路及歐洲航路ニ付寄港補助ノ形式ニ依リ内地有力船主ノ經營外國航路ヲ朝鮮ニ誘致シ交易助長ニ資スルノ要アリ

四 産業貿易發達ノ趨向ニ順應シ港灣施設ノ完備ヲ圖ルコト
 輓近朝鮮ニ於ケル産業及貿易ノ著シキ發展ニ伴ヒ擴張ヲ要スル港灣多々アルノミナラズ其ノ海陸連絡施設ニ於テモ整備ヲ要スルモノ尠カラザル狀況ニ鑑ミ急速ニ此等施設ノ完備ヲ圖リ以テ産業及貿易ノ伸展ニ順應セシムルノ要アリ

施設計畫

今後改修ヲ要スル港灣ノ中急施ノ要アルモノ十一港ナルガ之ヲ緩急ニ應ジ主トシテ國費ヲ以テ施行スルノ要アリ

五 産業經濟發達ノ趨向ニ順應シ通信機關ノ擴充ヲ圖ルコト
 近年ニ於ケル朝鮮諸産業ノ發達及商取引ノ伸展ニ順應シ通信官署ノ擴充ヲ圖ルト共ニ有線及無線ノ電信電話施設ノ整備ヲ圖ルノ要アリ

施設計畫

イ 通信官署ノ擴充ヲ圖ルコト
 朝鮮ニ於ケル通信官署ノ配置ハ通信力ノ程度ニ應ゼザルノミナラズ輓近地方産業ノ開發ニ伴ヒ農山漁村ニ於ケル通信力ノ激増ヲ來シツアル現狀ニ鑑ミ從來ノ通信官署ヲ擴充スルノ外之ガ増設ヲ爲シ尙漁場、鑛山其ノ他臨時ニ多數人參集スル地ニ對シテハ應急通信ノ施設ヲ爲スノ要アリ
 □ 有線電信電話施設ノ整備ヲ圖ルコト
 鮮内各地間及對内地、對滿洲間ノ電信電話施設ノ利用ハ近時極メテ頻繁ニシテ其ノ負擔限度ヲ著シク超過シ居ルノミナラズ海底線ノ如キハ線齡極メテ古キモノアルヲ以テ緩急ニ應ジ左ノ諸施設ヲ講ズルノ要アリ
 1 鮮内必要ノ地方ニ對シ電信電話回線ノ新增設ヲ爲スノ外未ダ電信事務又ハ電話通

話及交換事務ノ開始ヲ見ザル局所ニ對シ之ガ擴充ヲ圖リ尙電話加入者ノ増加ニ伴ヒ電話交換方式ノ改善ヲ爲スコト

2 對内地間海底線ノ改良及増設ヲ圖ルコト

3 對内地間電話回線ノ増設ヲ圖ルコト

4 對滿洲間電信電話施設ノ充實ヲ圖ルコト

ハ 無線電信施設ノ整備ヲ圖ルコト

朝鮮内地間ノ無線連絡ハ未ダ設備十全ナラザルヲ以テ之ガ改裝ヲ行フト同時ニ鈔クトモ道廳所在地ニハ無線電信ノ設置ヲ爲シ又要衝ノ孤島等ニハ小規模無線ノ施設ヲ爲シ以テ地方ノ需要ヲ充スト共ニ併セテ有事ノ際ニ備フルノ要アリ

ニ 放送無線電話施設ノ増備ヲ圖ルコト

鮮内必要ト認ムル主要都市ニ漸次放送無線電話施設ノ増備ヲ爲シ以テ地方産業ノ助長ニ資スルノ要アリ

第六 金融ニ關スル件

第六 金融ニ關スル件

朝鮮ニ於ケル各種資源ノ開發及産業貿易等ノ發展ヲ促進スルガ爲一層資金ノ供給ヲ潤澤ニシ之ガ融通ノ圓滑ヲ圖ルノ要アルモノト認ム

施設計畫

- イ 起業金融ノ改善ヲ圖ルコト
- 起業金融ハ現在主トシテ二、三ノ金融機關ニ依リ兼營的ニ行ハレ居ルモ最近各種起業著シク勃興シ資金ノ需要激増シツツアル情勢ニ順應シ起業資金ノ供給ヲ一層圓滑ナラシメ資源開發ニ遺憾ナカラシムルノ要アルト同時ニ一面本金融ハ特殊ノ經營方針ニ據ラシムルヲ可トスルヲ以テ次ノ如ク施設スルノ要アリ
- 1 起業ニ關スル金融機構ヲ改善スルコト
 - 2 本金融ハ性質上相當多額ノ資金調達ヲ要スルヲ以テ特ニ之ガ調達ヲ容易ナラシムル方策ヲ講ズルコト
 - 3 鑛業、林業、漁業等ノ特殊起業ニ在リテハ受信上必要ナル諸施設ヲ講ズルコト
- ロ 農山漁村金融ノ改善ヲ圖ルコト

農山漁村振興ニ必要ナル低利資金ハ努メテ之ガ供給ノ圓滑ヲ圖リツツアリト雖モ未ダ十全ナラザルニ付將來資金ノ供給ヲ一層潤澤ナラシムル方途ヲ講ズルト共ニ受信者側ニ於ケル信用力ノ増成等ヲ圖ル爲次ノ如ク施設スルノ要アリ

1 高利負債ノ整理及自作農ノ創定維持ニ付テハ

(一) 資金ヲ一層潤澤ナラシムルコト

(二) 金利ノ低下ヲ圖ルコト

(三) 本資金ノ融通ヲ受ケタル者ニ對シ指導金融ノ徹底及更生計畫ノ遂行ニ依リ再轉落ノ防止ニ努ムルコト

2 其ノ他農山漁村振興ニ要スル特殊資金ニ付テハ

(一) 殖産契ヲ速ニ普及シ金融疏通ノ便ヲ圖ルコト

(二) 農業動産信用令ヲ速ニ施行スルコト

(三) 農林産物漁船及家畜等ニ關スル共濟制度、保險制度等ヲ確立シ其ノ普及ヲ圖ルコト

ハ 中小商工業金融ノ改善ヲ圖ルコト

中小商工業者ニ對スル金融ヲ一層疏通セシムルハ刻下ノ急務ナルヲ以テ既設各金融

機關ヲシテ一段ノ工夫ヲ爲サシメ機能ノ擴充ヲ圖リ之ガ實現ニ努力セシムルト共ニ中小商工業者ノ自覺ヲ促シ特殊ノ團體ヲ組成セシムル等其ノ他適切ナル方途ヲ講ズル爲次ノ如ク施設スルノ要アリ

1 工業組合、商業組合、都市ニ於ケル殖産契等ヲ速ニ普及シ金融疏通ノ便ヲ圖ルコト

2 營業無盡ノ制度ヲ改善シ中小商工業者ノ利用ニ便ズルコト

3 金融保證機關ニ付考慮スルコト

ニ 政府又ハ諸團體ノ助成ヲ考慮スルコト
彼上各般ノ金融ニ付テハ従前ヨリ之ガ改善ノ必要ヲ認メ相當研究ヲ加ヘラレタルモ之ヲ從來ノ如ク民間ノ自營ノミニ放置シテハ充分ナル效果ヲ收メ難シト認メラルヲ以テ政府共ノ他ノ團體ニ於ケル補助又ハ補償制度ノ採用等特段ナル援助助成ニ付次ノ諸點ヲ考慮スルノ要アリ

1 諸機關ニ對シ出資又ハ無利子貸付ヲ爲シ又ハ低利資金ノ供給ヲ斡旋スルコト

2 一部損失補償ノ方途ヲ講ズルコト

ホ 金融網ノ普及充實ヲ圖ルコト

産業經濟發展ノ機運ニ順應シテ金融機關ノ増設ヲ圖リ以テ資金融通ノ圓滑ヲ期スル

ノ要アリ

へ 金融機構ノ改善ニ付萬全ヲ期スル爲調査機關ヲ設置スルコト
金融機關ノ改善調整ハ現下ノ事態ニ於テ最モ切實緊要ナルモノアルヲ認ムルニ付起
業金融改善ト共ニ慎重考慮ヲ重ヌル爲之ガ具體案樹立ニ付至急金融調査機關ヲ特設
スルノ要アリ

第七 産業教育ニ關スル件

第七 産業教育ニ關スル件

朝鮮ノ産業教育ニ付テハ人的資源ヲ向上充實シ産業經濟發展ノ趨向ニ順應スル趣旨ノ下ニ更ニ大要左ノ方策ヲ採ルノ要アルモノト認ム

一 實業教育ノ各般ニ互リ其ノ普及擴充ヲ圖ルコト

朝鮮ニ於ケル實業教育ノ現況ハ未ダ産業經濟發展ノ趨向ニ副ハザル憾アルヲ以テ農林水産鑛業商工等ノ各般ニ互リ今後積極的ニ教育施設ノ普及擴充ヲ圖ルト共ニ中等程度以下ノ工業教育ニ付テハ特ニ徒弟式教育ヲ普及徹底セシムルノ方策ヲ講ズルノ要アリ

施設計畫

イ 實業補習教育ノ普及擴充ヲ圖ルコト

1 農村振興運動ノ普及徹底上農村中堅青年ノ養成ハ特ニ緊要トスル所ナルニ鑑ミ尠クトモ一郡島一校ノ割合迄ニ農業補習學校ヲ増設シ其ノ設備費及經常費ニ對シ國庫ヨリ相當ノ助成ヲ圖ルコト

2 商業、工鑛業及水産補習學校ハ必要ノ地ニ漸次之ヲ増設シ前項ニ準ジ國庫ヨリ相當ノ助成ヲ圖ルノ外工鑛業及水産補習學校ニ於テハ初度設備及其ノ維持更新ニ相當多額ノ經費ヲ要スルヲ以テ各校下ニ工鑛業教育組合又ハ水産教育組合ヲ組織セシメ之ガ經費ノ一部ヲ負擔セシムルコト

ロ 中等程度實業教育ノ普及擴充ヲ圖ルコト

中等程度ノ實業教育ハ一般中等教育ニ比シ普及ノ程度著シク低キ朝鮮現下ノ情勢ニ照シ之ガ振興ハ日下ノ急務ト認ムルヲ以テ其ノ普及擴充ヲ圖ルノ要アリ

ハ 實業専門教育ノ擴充ヲ圖ルコト

各學校共其ノ設備甚ダ不完全ナルヲ以テ速ニ之ガ設備ノ改善充實ヲ圖ルト共ニ將來適當ノ機會ニ於テ高等商業學校、高等工業學校及高等農林學校各一校ヲ増設シ且専門程度ノ水産講習所ヲ新設スルノ要アリ

ニ 可及的速ニ京城帝國大學ニ理農、工等適當ノ學部ヲ設置スルコト

二 産業經濟發展ノ趨向ニ順應シ初等普通教育ノ改善普及ヲ圖ルコト

朝鮮ノ實情ニ鑑ミ今後一層初等學校ニ於ケル職業科教育ヲ向上充實セシムル一面都

會地ニ於ケル初等教育ノ劃一制ヲ改メ實情ニ應ジ農村ニ於ケル簡易學校ノ精神ヲ參酌セル短期教育施設ヲモ併行シテ一層初等教育ノ普及ヲ迅速ナラシムルノ要アリ

施設計畫

第二次朝鮮人初等教育擴充計畫ノ實施ニ依リ教育ノ普及ヲ圖ルト共ニ教育授産並進ノ實ヲ果グル爲左ノ施設ニ對シ積極的助成ノ方途ヲ講ズルノ要アリ

1 職業科教育ノ改善擴充ヲ期スル爲之ガ設備ノ充實ニ對シ國庫ヨリ相當ノ助成ヲ爲スコト

2 公立普通學校ニ於ケル卒業生指導施設ヲ普及セシムル爲國庫ヨリ相當ノ助成ヲ爲スコト

3 都會地簡易學校制度ノ實施ニ依リ小産者子弟ニ對スル教育ノ普及ヲ促進シ工業従事者ノ資質向上ヲ圖ルコト

三 國語ノ普及ニ最善ノ努力ヲ拂フコト

朝鮮ニ於ケル産業經濟ノ發展ハ固ヨリ帝國經濟圈ニ於ケル綜合的經濟力ノ充實強化ヲ目途トスベク之ガ爲ニハ努メテ地域的意識ヲ棄テテ各地其ノ所ヲ得タル分擔事業

ノ遂行ニ邁進セザルベカラズ而シテ地域的意識ノ除去ハ言語ノ不通ニ基ク意思ノ不疎通ヲ排除スルヲ以テ最モ捷徑ナリト思料セララルヲ以テ國語ノ普及ニ最善ノ努力ヲ拂フノ要アリ

第八 一般的事項

第八 一般的事項

一 内外産業經濟ノ積極的建設ニ關スル連絡ヲ一層緊密ナラシムルコト
帝國現下ノ情勢上帝國經濟圏内ニ於ケル綜合的經濟力ノ積極的充實強化ヲ圖ルノ要
緊急ナルモノアルト朝鮮、滿洲國ニ於ケル産業ノ全面的發展ノ趨向ニ鑑ミ帝國國策ノ
決定ニ順應シ内外産業全般ヲ總觀シ適地適業主義ニ依リ其ノ積極的建設ヲ圖ルコト
必要ナルモノアリ依テ政府部内ニ内外産業經濟ノ積極的建設ニ關スル連絡審議機關
ヲ設ケ一貫セル指導方針ヲ決定シ此ノ方針ニ基キ各般ノ具體的方策ヲ實施スルノ要
アリ

二 産業ニ關スル試驗調査機關ノ擴充ヲ圖リ相互ノ連絡ヲ緊密ナラシムルコト
朝鮮ニ於ケル産業ニ關スル試驗調査機關トシテハ本府農事試驗場、林業試驗場、水産試
驗場、地質調査所、燃料選鑛研究所、中央試驗所、酒類試驗室等アリテ夫々試驗調査ヲ實施
シツツアルモ其ノ施設竝ニ各機關ノ連絡統制未ダ充分ナラザルヲ以テ現在ノ機構ヲ

根本的ニ擴充強化スルト共ニ各試験調査機關相互ノ連絡ヲ緊密ナラシムル組織ヲ考慮スルノ要アリ

三 發明ノ獎勵機關ヲ設クルコト
産業ノ振興ハ各種ノ發明ニ負フ所大ナルヲ以テ之ヲ獎勵スル爲國庫ノ助成ノ下ニ適當ナル獎勵機關ヲ設クルノ要アリ

四 内外地及滿洲國ニ於ケル各種研究機關相互ノ連絡ヲ圖ルコト
各種試験研究又ハ發明獎勵等ニ關スル機關ハ廣ク帝國内外地及滿洲國ヲ通シ連絡協調ヲ圖ルト共ニ朝鮮ニ於テモ新ニ理化學研究所ノ如キ機關ヲ設置シ以テ帝國全般ノ産業經濟ノ伸展ニ資スルノ要アリ

五 氣象竝ニ海洋調査機關ノ擴充ヲ期スルコト
産業ノ健全ナル發達ヲ圖リ災害ノ未然防止ニ資スル爲海陸ニ渉ル氣象觀測竝ニ海洋調査機關ノ整備擴充ヲ期スルノ要アリ

希望事項

根本的ニ擴充強化スルト共ニ各試驗調査機關相互ノ連絡ヲ緊密ナラシムル組織ヲ考慮スルノ要アリ

三 發明ノ獎勵機關ヲ設クルコト
産業ノ振興ハ各種ノ發明ニ負フ所大ナルヲ以テ之ヲ獎勵スル爲國庫ノ助成ノ下ニ適當ナル獎勵機關ヲ設クルノ要アリ

四 内外地及滿洲國ニ於ケル各種研究機關相互ノ連絡ヲ圖ルコト
各種試驗研究又ハ發明獎勵等ニ關スル機關ハ廣ク帝國內外地及滿洲國ヲ通ジ連絡協調ヲ圖ルト共ニ朝鮮ニ於テモ新ニ理化學研究所ノ如キ機關ヲ設置シ以テ帝國全般ノ産業經濟ノ伸展ニ資スルノ要アリ

五 氣象竝ニ海洋調査機關ノ擴充ヲ期スルコト
産業ノ健全ナル發達ヲ圖リ災害ノ未然防止ニ資スル爲海陸ニ渉ル氣象觀測竝ニ海洋調査機關ノ整備擴充ヲ期スルノ要アリ

希 望 事 項

希望事項

一 農林水産業ニ關スル件

イ 農業移住者ニ對シ食糧費ノ給與竝ニ營農費ノ融通ヲ圖ルコト

移住者ハ概シテ家計豐ナラザル者多ク移住後收穫期迄ノ間ニ要スル食糧費及營農費ヲ自ラ調達シ得ザル者尠カラザルベキヲ以テ食糧費ノ給與竝ニ營農費ノ融通ニ付考慮セラレタシ

ロ 水産物販賣ノ改善及合理化ヲ圖ルコト

水産物販賣ノ改善及合理化ハ水産經濟ニ至大ノ關係アルヲ以テ之ガ爲適切ナル方策ヲ樹立シ販賣竝ニ斡旋機關ヲ整備充實シテ販賣組織ノ改善ヲ期シ必要ニ應ジ内地及海外ニ調査員ヲ派遣シ又ハ特設ノ調査機關ヲ設置セラレタシ

二 動力資源ニ關スル件

朝鮮ニ於ケル電力ノ統制ハ其ノ計畫既ニ確立シ目下着々實現シツツアルヲ以テ數年

ナラズシテ第一期統制計畫ニ屬スル主要地點ハ之ヲ開發シ盡スコトト信ズ今其ノ實況ヲ案ズルニ北鮮地方ニ在リテハ長津江、赴戰江、黃水院江及富寧等ノ水力發電アリ南鮮地方ニ在リテハ寧越ノ火力發電アリ然レドモ西鮮方面ニ於テハ經濟的大發電地點ノ存在尠シ於是乎總督府ハ繼續事業トシテ國境河川ノ調査ヲ計畫セラレタリト聞ク洵ニ機宜適切ノコトト思惟ス然ルニ帝國現下ノ情勢ヲ觀ルニ國策上特ニ國防上ノ見地ヨリ電力ノ開發ハ一日モ苟且ニ附スベカラザルモノアリト信ズルガ故ニ其ノ調査期間ハ可及的之ヲ短縮シ且國策ニ順應スベキ工業ノ振興ニ資センガ爲一大特殊電力會社ヲ設立シ以テ大電力ノ開發ヲ圖ラレタシ

三 交通ニ關スル件

イ 内外地ノ海事行政ニ兎角矛盾ヲ生ズルノ事例多カリシヲ以テ朝鮮ニ於テ海事政策ヲ樹立スルニ當リテハ充分内地其ノ他ト連絡ヲ執ルト共ニ内鮮滿全體ヲ考慮ニ入レタル政策ヲ樹ツルヤウ考慮アリタシ

ロ 朝鮮輸移出貨物ノ大宗タル鮮米ノ輸送ハ現在充分ナル統制ナク爲ニ關係者ノ蒙ル不利尠カラザルヲ以テ朝鮮總督府ノ手ニ依リ之ガ徹底的ナル統制ヲ圖ラレタシ

ハ 内鮮間ノ電信料金ヲ鮮内各地間ノ料金ト同一ト爲スヤウ考慮アリタシ
 ニ 電話ノ架設數ヲ一層増加スルト共ニ之ガ架設ノ迅速ヲ圖ラレタシ
 ホ 鐵道ノ改良ト建設ハ最モ急務ナリトスルモ其ノ資源ハ公債ト投資ニ依ルノ外ナシ而シテ現在ノ補助法ニテハ未ダ充分ナラザルモノアリサリトテ公債ニ依ランカ現状ノ國家財政狀態ニテハ其ノ多クヲ望ム能ハザルニ付民間ノ投資ヲ求ムルノ外ナシ仍テ投資家ノ安ンジテ投資スルノ方法ヲ講ゼラレタシ

附
録

朝鮮産業經濟調查會設置趣意書

朝鮮總督府施政以來二十五年其ノ間朝鮮ノ産業經濟ハ顯著ナル伸展ノ道程ヲ辿リ今日ノ隆昌ヲ致セルガ其ノ主流トスル所ハ農業ヲ本位トスル原始産業ニシテ即チ帝國經濟圈ニ於ケル朝鮮ノ役割ハ主トシテ其ノ不足食糧ノ生産補充ニ在リタリト謂フベシ然ルニ輓近朝鮮ノ産業ハ内外情勢ノ變遷ニ促サレ局面展開ノ時運ニ際會シ之ヲ原始産業方面ニ於テ見ルモ工業原料被服原料等ノ產地トシテ其ノ適應性ヲ示現スルニ到リ更ニ帝國ニ於ケル有用不可缺ノ地下資源ノ供給地タルト同時ニ此等資源ト低廉ニシテ豊富ナル動力及勞力ト相俟テ工業企業地トシテノ好望性ヲモ事實ノ上ニ於テ證明スルニ到レリ之ニ伴ヒ貿易ノ躍進亦著シク即チ朝鮮ノ産業經濟ハ正ニ原始産業中心時代ヨリ各種産業ノ全面的展開期ニ推移シツツ在ルモノト謂フベシ

轉ジテ世界經濟界ニ於ケル帝國ノ地歩ヲ觀ルニ其ノ飛躍的進出ハ正ニ世界恐慌ノ的タリト雖モ進ンデ之ガ霸權ヲ掌握維持センガ爲ニハ更ニ帝國經濟圈ニ於ケル人的及物的資源ヲ總動員シテ其ノ經濟力ノ充實強化及歸一調整ヲ圖リ以テ世界經濟戰ニ臨ムノ雄略ナカルベカラズ即チ日滿圈內ニ於テ産業ノ適地分布開發ノ策ヲ樹テ東洋經

濟王國ノ完成ニ向テ精進スベキ秋ト信ズ
此ノ秋ニ當リ日滿圈内ノ地理的中心ニ位シ且開發利用ヲ俟ツ資源動力勞力ノ豊富ニ
シテ而モ各種産業ノ全面的展開期ニ在ル朝鮮ノ産業經濟ニ付一定ノ基準ト針路トヲ
與ヘ大局的見地ヨリ之ガ施設ノ緩急ヲ律シ置クコトハ現下喫緊ノ要務タルハ勿論之
難ヲ鮮内ニ於ケル増加人口對策生活安定策等重要問題解決ニ對スル回答案ヲ得ルモ
ノト謂フベシ
本府ハ茲ニ鑑ミル所アリ朝鮮産業經濟調查會ヲ設置シ朝野有識ノ士ニ諮リ朝鮮ノ産
業經濟ノ今後據ルベキ方策ヲ定メ以テ國運ノ隆昌ニ寄與スル所アラントス

朝鮮産業經濟調查會規程

(昭和十一年八月二十五日閣議決定)

- 第一條 朝鮮總督府ニ朝鮮産業經濟調查會ヲ置ク
調査會ハ朝鮮總督ノ諮問ニ應ジ朝鮮ノ産業及經濟ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審
議ス
調査會ハ前項ノ事項ニ付朝鮮總督ニ建議スルコトヲ得
第二條 調査會ハ會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條 會長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ
委員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ジ又ハ囑託ス
第四條 會長ハ會務ヲ總理ス
會長事故アルトキハ會長ノ指定シタル委員其ノ事務ヲ代理ス
第五條 會長ハ書面ヲ以テ委員ノ意見ヲ徵スルコトヲ得
第六條 會長必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督府部内高等官又ハ適當ト認ムル者ヲ
シテ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得
第七條 調査會ニ幹事ヲ置キ關係各廳高等官ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ジ又ハ囑託ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條 調査會ニ書記ヲ置キ朝鮮總督府部内職員ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ズ
書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

朝鮮産業經濟調查會諮問事項

朝鮮ニ於ケル各種産業ノ開發及經濟ノ發達ニ關シ左記各號ニ付有效適切ナル方策ヲ
諮フ

記

第一 農林水産業ニ關スル件

農林水産業ノ開發ハ食糧及工業原料品ノ供給上及鮮内最大多數住民ノ生活安定上
最モ緊要トスル所ナルヲ以テ之ガ改善伸展方策ニ付意見ヲ求ム

第二 資源ニ關スル件

朝鮮ニ於ケル豊富ナル礦物資源及動力資源ノ開發利用方策ニ付意見ヲ求ム

第三 工業ニ關スル件

朝鮮ノ産業的素地及工業新興ノ趨向ニ順應シ之ガ振興調整方策ニ付意見ヲ求ム

第四 商業及貿易ニ關スル件

資源開發及産業振興ノ趨向ニ順應シ商業及貿易ノ改善伸展方策ニ付意見ヲ求ム

第五 交通ニ關スル件

産業開發及貿易振興ノ趨向ニ順應シ海陸ノ交通運輸及通信施設ノ整備改善方策ニ付意見ヲ求ム

第六 金融ニ關スル件

資源開發及産業貿易振興ノ趨向ニ順應シ金融施設ノ改善方策ニ付意見ヲ求ム

第七 産業教育ニ關スル件

産業經濟伸展ノ趨向ニ順應シ人的資源ノ向上充實ヲ圖ル爲教育施設ノ改善方策ニ付意見ヲ求ム

第八 其ノ他

前各號ノ外産業ノ開發及經濟ノ發達ニ關スル有效適切ナル方策ニ付意見ヲ求ム

朝鮮産業經濟調查會會議日程

第一日 總會 (十月二十日火曜日)

午前九時開會 於本府第一會議室

一 總督挨拶

一 會長挨拶

一 議事

一 分科會及所屬委員ノ決定

第二日 分科會 (十月二十一日水曜日)

午前九時開會

第一分科會 於本府第一會議室

一 分科會主査選舉

一 議事

第二分科會 於本府第二會議室

一 分科會主査選舉

第一 議事
第三 分科會
於本府第三會議室

一 分科會主查選舉
一 議事

第三日 分科會 (十月二十二日 木曜日)

午前九時開會

第一 分科會
於本府第一會議室

一 議事

第二 分科會
於本府第二會議室

一 議事

第三 分科會
於本府第三會議室

一 議事

第四日 分科會 (十月二十三日 金曜日)

午前九時開會

第一 分科會
於本府第一會議室

一 議事
第二 分科會
於本府第二會議室

一 議事

第三 分科會
於本府第三會議室

一 議事

第四 分科會
於本府第一會議室

一 報告書議決

一 分科會主查選舉

一 議事

一 報告書議決

第五日 總會 (十月二十四日 土曜日)

午前九時開會

於本府第一會議室

一 分科會主查報告

- 一 答申案議決
- 一 閉會ノ辭

朝鮮産業經濟調查會議事規則

- 第一條 會議ノ日程ハ會長之ヲ定ム
- 第二條 會長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ掌理ス
- 第三條 會長事故アルトキハ會長ノ指定シタル委員議長ノ職務ヲ代理ス
- 第四條 會議ハ委員二分ノ一以上出席スルニ非ザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ
- 第五條 會議ハ之ヲ公開セズ
- 第六條 發言セントスル者ハ議長ノ承認ヲ受クベシ
- 第七條 議長ハ審議上必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督府部内高等官又ハ適當ト認ムル者ヲシテ會議ニ出席シ議案ノ説明又ハ意見ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第八條 修正ノ動議ヲ提出セントスル者ハ案ヲ具シ之ヲ議長ニ提出スベシ但シ簡單ナルモノニ付テハ口頭ヲ以テ之ヲ陳述スルコトヲ得
- 第九條 動議ハ賛成者三人以上アルニ非ザレバ議題ト爲スコトヲ得ズ
- 第十條 建議案ヲ發議セントスル者ハ案ヲ具シ理由ヲ附シ賛成者三人以上連署ノ上之ヲ議長ニ提出スベシ

第十一條 議長ハ缺席者ノ書面ヲ以テ提出シタル意見ヲ會議ニ報告スベシ
 第十二條 議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ
 依ル

第十三條 議長必要ト認ムルトキハ分科會ヲ設置シ審議セシムルコトヲ得
 委員ノ所屬分科會ハ本會議ノ議ヲ經テ議長之ヲ定ム

第十四條 分科會所屬委員ハ分科會主查ヲ互選スベシ
 分科會主查ハ審議ノ經過及結果ヲ本會議ニ報告スベシ

第十五條 分科會ニハ本會議ニ關スル規定ヲ準用ス
 第十六條 本則ニ規定ナキ事項ハ會長之ヲ決ス

朝鮮産業經濟調查會名簿

會長	委員
朝鮮總督府政務總監	東京帝國大學名譽教授 農學博士 拓務次官
大野綠一郎	片倉製絲紡績株式會社社長 三井物産株式會社常務取締役
(以下イロハ順)	農林省水産局長 朝鮮總督府財務局長 拓務省殖産局長 日本石油株式會社社長 鮮滿拓殖株式會社總裁
岩住良治	原辰二(缺席)
入江平(缺席)	石川禮助
今井五介	八田嘉明(缺席)
林繁藏	萩原三藏
橋本圭三	二宮治重

朝鮮産業經濟調査會名簿

朝鮮總督府水産試驗場長	西田敬三
朝鮮總督府殖産局長	穂積眞六
朝鮮商業銀行頭取	朴榮喆
朝鮮總督府學務局長	富永文一
鎮海要港部參謀長	越智孝平
大日本麥酒株式會社取締役會長	大橋新太郎
京城電氣株式會社取締役會長	大河内正敬(缺席)
理化學研究所所長	大竹十郎
朝鮮總督府內務局長	大内武次郎
京城帝國大學教授	大藏公望
男	岡本桂次郎
朝鮮電氣協會會長	河本桂次郎
朝鮮銀行總裁	加藤敬三郎
朝鮮商業會議所會頭	賀田直治郎
釜山水産株式會社社長	香椎源太郎
朝鮮瓦斯電氣株式會社社長	

朝鮮産業經濟調査會名簿

三菱鑛業株式會社取締役會長	河手拾二
東京帝國大學名譽教授	桂木徳三
朝鮮總督府林業試驗場長	鎬相龍二
朝鮮生命保險株式會社社長	韓吉浩
朝鮮總督府鐵道局長	吉田榮吉
多田林業合資會社社長	多田康順(缺席)
滿洲國實業部次長	高橋康順(缺席)
東洋拓殖株式會社總裁	高山長幸(缺席)
商工次官	竹内可吉(缺席)
關東軍參謀	竹下義晴
朝鮮總督府地質調査所長	立岩巖巖
鏡淵紡績株式會社社長	津田信吾
商工省臨時產業管理局第一部長	辻嘉一
東武鐵道株式會社取締役社長	根津嘉一
日本電力株式會社副社長	内藤嘉一

朝鮮産業經濟調查會名簿

朝鮮總督府專賣局長	棟 居 俊 一
大阪商船株式會社社長	村 田 省 藏
朝鮮榮泰肥料株式會社社長	野 口 浩 助
日本産業株式會社當務取締役	國 司 浩 助
朝鮮金融組合聯合會會長	矢 鍋 永 三 郎
朝鮮總督府農林局長	矢 島 杉 造
朝鮮總督府逓信局長	山 田 忠 次
朝鮮總督府中央試驗所長	山 村 銳 吉
朝鮮總督府事務會議室	山 澤 和 三 郎
內閣資源局長	松 井 房 春 生
朝鮮農會副會長	松 井 房 治 郎
石炭鐵業聯合會會長	松 本 健 次 郎
朝鮮總督府法務局長	增 永 正 一 郎
朝鮮生命保險株式會社專務取締役	元 原 銀 次 郎
王子製紙株式會社社長	藤 原 銀 次 郎

朝鮮産業經濟調查會名簿

內閣調查局調查官	藤 田 國 之 助 (缺席)
住友會社理事	國 府 精 一 (缺席)
商工省工務局長	小 島 新 一 (缺席)
南滿洲鐵道株式會社理事	郡 山 智 六
朝鮮總督官房外事課長	相 川 勝 六
朝鮮殖産銀行頭取	有 賀 光 豐
富士電力株式會社取締役	朝 倉 每 人
農林省農事試驗場長	安 藤 廣 太 郎
農林省農事試驗場長	安 藤 廣 太 郎
東京帝國大學講師	佐 藤 銀 五 郎
東京帝國大學講師	佐 藤 銀 五 郎
東洋拓殖株式會社理事	佐 方 文 次 郎
朝鮮軍參謀長	佐 枝 義 重 郎
豐國製粉株式會社社長	齋 藤 久 太 郎
朝鮮製粉協會聯合會幹事長	金 季 洙 郎
京城紡織株式會社社長	金 能 秀 夫
朝鮮總督府農事試驗場長	湯 川 又 夫

不二興業株式會社取務取締役
 朝鮮總督府警務局長
 朝鮮絹絲布商聯合會理事長
 朝鮮郵船株式會社社長
 日本電氣工業株式會社社長
 大藏省預金部長
 東京帝國大學名譽教授

委員代理出席者

(藤田國之助代理)
 內閣調査局調査官
 (原辰二代理)
 農林省水産局漁政課長
 (高橋康順代理)
 滿洲國實業部臨時産業調査局長

臨席者

陸軍省軍務局戰備課
 陸軍省砲兵大尉

三井榮長
 三橋孝一
 宮林泰司
 森辨治
 森蘇利
 關原忠三
 鈴木梅太郎

橋井鍊真
 山中鍊
 山名悅三郎
 椎名悅三郎

岩崎春茂

幹事

京城帝國大學總長
 陸軍省軍務局戰備課長
 陸軍省砲兵大尉
 海軍省軍務局第二課長
 南滿洲鐵道株式會社參事
 滿洲國實業部事務官
 關東軍參謀陸軍砲兵中佐
 海軍燃料廠平壤鐵業部長

速水潤次郎
 長谷川泰治
 太田耕耘
 田所耕耘
 高津彦次
 秋永月三
 須田稔

朝鮮軍司令部
 朝鮮總督府農林局林業課長
 朝鮮總督府通信局電氣課長
 朝鮮總督府殖産局鑛山課長
 朝鮮總督府財務局理財課長
 朝鮮總督府殖産局水産課長

井原潤次郎
 伊藤重次郎
 今井賴次郎
 石田千太郎
 西崎鶴司
 西本計三

朝鮮總督府農林局長
 朝鮮總督府殖産局商工課長
 朝鮮總督府會計課長
 拓務省殖産局商工課長
 朝鮮總督府鐵道局營業課長
 朝鮮總督府農林局米穀課長
 朝鮮總督府內務局土木課長
 拓務大臣官房司計課長
 朝鮮總督官房文書課長

書記

朝鮮總督府屬
 同
 同
 同

景山 宜貴
 確井 忠平
 藤本 修三
 江口 親憲
 佐藤 作郎
 鹽田 正洪
 榛葉 孝平
 杉川 芳壽
 鈴木 男
 (缺席)

橋本 幸次郎
 時任 義夫
 岡田 熊太郎
 加藤 欽一

朝鮮總督府理事官
 朝鮮總督府鐵道局書記
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 朝鮮總督府屬
 朝鮮總督府屬
 朝鮮總督府屬
 同
 同

川村 福藏
 永尾 隆造
 村上 庄作
 野口 昇
 黑河 內
 矢原 一誠
 山田 重吉
 藤田 豐作
 江見 正之
 遠藤 三男
 坂寄 守之助
 光石 郡治
 三島 小六
 嶋田 收一

朝鮮産業經濟調查會分科會ノ構成

第一分科會

第一 農林水産業ニ關スル件

委員 (イロハ順 ○印ハ主席 以下同)

岩住良治
 今井五介
 原辰二
 二宮治重
 西田敬三
 朴榮喆
 大内武次
 河内駿
 香椎源太
 太郎

鎭木徳二
 多田榮吉
 高橋康順
 棟居俊一
 國司浩助
 欠島杉造
 松井房治
 藤原銀次郎
 相川勝六郎
 有賀光豊
 安藤廣太郎
 佐藤銀五郎
 佐方文次郎
 湯川又次郎
 三井榮長



第三 工業ニ關スル件
委

員

野	内	辻	津	立	竹	韓	桂	河	岡	大	穂	橋
口	藤	田	岩	下		手			本	橋	積	本
					相			桂	新	眞	圭	
九	熊	謙	信	義	弁	拾	次	太	六	三		
二	遵	喜	吾	巖	晴	龍	三	二	郎	郎	郎	郎

第二分科會
第二 資源ニ關スル件

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	兼
											務

關	齋	佐	松	矢	竹	賀	大	越	穂	萩	鈴
原	藤	枝	井	鍋	下	田	藏	智	積	原	木
	久			永					眞	梅	
忠	太	義	春	三	義	直	公	孝	六	彦	太
三	郎	重	生	郎	晴	治	望	平	郎	三	郎

九〇

同 同 兼
務

富 萩 石 森 宮 三 金 佐 朝 國 藤 松 松 山 山
永 原 田 林 橋 枝 倉 府 田 本 井 澤 村
文 彦 禮 藍 泰 孝 季 義 每 精 之 健 春 和 銳
一 三 助 利 司 郎 深 重 人 一 助 郎 生 郎 吉

第三分科會

第四 商業及貿易ニ關スル件

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

鈴 齋 有 郡 藤 山 棟 根 高 加 大 越
木 藤 賀 山 原 田 居 津 橋 藤 藏 智
梅 久 光 銀 忠 俊 嘉 康 敬 公 孝
太 太 豐 智 郎 次 一 郎 順 郎 望 平

第五 交通ニ關スル件
第六 金融ニ關スル件
委員

員

-
- | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 矢 | 村 | 根 | 吉 | 賀 | 加 | 大 | 大 | 越 | 萩 | 林 | 石 |
| 鍋 | 田 | 津 | 田 | 田 | 藤 | 藏 | 竹 | 智 | 原 | | 田 |
| 永 | 省 | 嘉 | | 直 | 敬 | 公 | 十 | 孝 | 彦 | 繁 | 禮 |
| 三 | | 一 | | 浩 | 三 | 望 | 郎 | 平 | 三 | 藏 | 助 |
| 郎 | 藏 | 郎 | 浩 | 治 | 郎 | 望 | 郎 | 平 | 三 | 藏 | 助 |

同 同 同 同 同 同 兼務

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 河 | 岡 | 朴 | 穂 | 二 | 原 | 今 | 關 | 森 | 金 | 齋 | 郡 | 元 | 増 | 山 |
| 手 | 本 | | 積 | 宮 | | 井 | 原 | | 藤 | 能 | 山 | | 永 | 田 |
| 拾 | 桂 | 榮 | 真 | 治 | 辰 | 五 | 忠 | 辨 | 久 | 太 | | | 正 | 忠 |
| 二 | 郎 | 喆 | 郎 | 重 | 二 | 介 | 三 | 郎 | 秀 | 郎 | 智 | 常 | 一 | 次 |

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	兼務
宮	佐	有	國	松	内	辻	津	竹	高	韓	
林	方	賀	府	井	藤		田	下	橋	和	
泰	文	光	精	春	熊	謹	信	義	康		九六
司	郎	豐	一	生	喜	吾	吾	晴	順	龍	

第四分科會

第七 産業教育ニ關スル件
第八 一般的事項

委員

○

加	大	大	大	大	富	穂	西	二	橋	萩	林	今	岩
藤	藏	内	竹	橋	永	積	田	宮	本	原		非	住
敬		武	十	新	文	眞	敬	治	圭	彦	繁	五	良
三	公	次	郎	太	一	郎	三	重	郎	三	藏	介	治
九七	郎	望	次	郎	郎	一	郎	三	重	郎	三	藏	介

鈴	森	三	湯	齋	佐	佐	安	右	相	郡	藤	藤
木		橋	川	藤	枝	藤	藤	賀	川	山	田	原
梅		孝	久	久	義	振	廣	光	勝		國	銀
太	嘉	一	又	太	五	太					之	次
郎	昶	郎	夫	郎	重	郎	郎	豐	六	智	助	郎

松	山	山	矢	矢	國	野	根	辻	津	竹	高	韓	簡	桂
井	澤	村	島	鍋	司	口	津		田	下	橋		木	
春	和	銳	杉	永	浩		嘉	謙	信	義	康	相	德	弁
	三		三				一							九八
生	郎	吉	造	郎	助	遠	郎	吾	吾	晴	順	龍	二	三

朝鮮産業經濟調査會ニ於ケル總督挨拶

今回朝鮮産業經濟調査會ヲ設ケ各位ニ委員ヲ御願致シマシタ所御繁忙ノ中ニモ不拘委員タルコトヲ御承諾下サイマシタコトハ誠ニ欣幸トスル處デアリマス。殊ニ内地及滿洲カラ遙々御來會ヲ得マシタコトヲ慶幸ト致シマス。

本調査會ノ設置ニ付テハ私ノ着任前既ニ前任者ニ於テ計畫セラレ着々其ノ準備モ進行中デアリマシタ然ルニ私トシテハ不素ヨリ東洋時局ノ重大性就中今後ニ於ケル日滿一體ノ強化國策ヲ遂行スル上ニ於テ本會ノ必要ヲ痛感シテ居リマシタガ故ニ其ノ設立ヲ促進シテ今日ニ到リマシタ從テ本會ノ成果ニ大ナル期待ヲ抱イテ居ル次第デアリマス。

願レバ朝鮮總督府施政以來既ニ二十五年ヲ經過致シ其ノ間諸般ノ事物ハ其ノ面目ヲ改メ殊ニ産業經濟ノ顯著ナル伸展ヲ見タルコトハ洵ニ御同慶ニ存ズル所デアリマス。抑産業經濟ノ消長ハ直ニ以テ國運ノ盛衰ヲ支配スルノミナラズ廣義國防ノ觀點ヨリモ亦之ニ關スル適宜ナル方策ノ樹立ハ最モ喫緊ノ要務デアリマシテ歴代ノ先任者モ夙ニ念ヲ茲ニ致サレ銳意畫策サレル所アリ民間ニ於カレテモ之ニ呼應シテ多年拮据

經營セラレマシタ結果兩者ノ働ガ相俟テ顯著ナル成績ヲ擧ゲ今日ノ隆昌ヲ見ルニ至ツタノデアリマス。

併シナガラ始政以來近年マデノ施設ハ朝鮮ノ民度及帝國ニ於ケル食糧供給地トシテ好適ナル點等ニ鑑ミ概ネ其ノ主力ヲ農林業ニ傾倒シ來ツタノデアリマスガ晚近内外情勢ノ變遷ニ促サレ朝鮮ノ産業モ亦局面轉換ノ時運ニ際會致シタノデアリマス。試ミニ之ヲ原始産業方面ニ於テ見ルモ被服原料ヲ首メ許多ノ工業原料ノ産地トシテ其ノ適應性ヲ新ニ認識セラレ更ニ帝國ニ於ケル有用不可缺ナル地下資源ノ供給地タルト同時ニ此等饒多ナル資源ト低廉ニシテ豊富ナル動力及勞力ト相俟テ工業企業地トシテノ好望性ヲモ事實ノ上ニ於テ證明スルニ到ツタ次第デアリマシテ此ノ企業勃興ノ機運ニ伴ヒ貿易ノ躍進亦著シク即チ朝鮮ノ産業經濟ハ正ニ原始産業中心時代ヨリ多種多彩ナル新興産業ノ全面的展開期ニ推移シ農工併進ノ時代ニ當面シ來ツタト認めラルルノデアリマス。

惟フニ世界ノ諸情勢ハ國際的政治經濟竝ニ思想對立ノ激化ト相俟テ表裏共ニ比々險惡ヲ加ヘツツアリマス。殊ニ列強ノ利害相對立スル東洋ノ事態ハ最モ警戒ヲ要スル時期ニ臨ミ今後ノ數年間ハ將ニ重要時局ノ分水嶺ニ達セントシテ居リマス。帝國ハ此

間ニ處シ、毅然トシテ東洋ニ於ケル唯一安定勢力タルノ使命ニ任ズルハ勿論ノコトデア
アルガ、一面世界經濟ノ主流ヲ爲スプロツク經濟ノ趨勢ニ鑑ミ、日滿不可分一體ノ觀點
ヨリ兩國國民經濟ヲ一層強化スル必要ガアリマス。即チ此ノ重要性アル日滿關係ニ
在リテ地理的中心ニ位シ兩者吻合ノ地帯ニアル朝鮮經濟ノ負荷スル任務ノ極メテ重
大ナルハ申ス迄モナイ所デアリマシテ、鮮内各種資源ヲ起スニ付テモ、單ニ資本的利潤
企業的打算ノ角度カラノミ之ヲ論ゼズ、國民經濟ノ必然ト可能ノ見地ヨリ之ヲ檢討シ
テ、日滿兩國ノ國策ニ貢獻スルノ意圖ヲ示スベキモノト思ヒマス。

如上ノ見地ヨリ朝鮮ニ於ケル産業經濟ノ今後據ルベキ基準ト針路トヲ確立シ併セテ
之ガ施設ノ緩急ヲ律シ置カントスルノガ本調査會設置ノ目的デアリマス。本府ハ彙
ニ大正十年九月産業調査委員會ヲ開催致シマシテ朝鮮産業ノ開發ニ付テ審議スル所
アリ大ニ得ル所ガアリマシタガ、更ニ滿洲事變ヲ契機トシテ急速ニ伸展シツツアル情
勢ニ應ゼンガ爲今回本會ヲ設置シ各位ノ御參集ヲ願ツタ次第デアリマス何卒本會ノ
趣旨ヲ諒トセラレマシテ慎重審議ヲ遂グ適切ナル成案ヲ得ルニ努メラレムコトヲ切
望致シマス。

茲ニ開會ノ初ニ當リマシテ聊カ所見ヲ披瀝シテ御清鑒ヲ仰グ次第デアリマス。

朝鮮産業經濟調查會ニ於ケル會長挨拶

朝鮮産業經濟調查會ノ規定ニ依リマシテ私ガ職務上會長ノ席ヲ瀆スコトト相成リマ
シタニ付キマシテハ、何卒宜シク各位ノ御援助ヲ御願ヒシタイト思ヒマス。

會議ヲ開キマス前ニ一應御挨拶ヲ兼ネ朝鮮ノ産業經濟ノ現状ヲ極ク大要御參考迄ニ
私ヨリ御説明申上グテ置カウト思ヒマス。

朝鮮ノ産業經濟ニ關シマシテハ朝鮮ニ御在任ノ方、其ノ他朝鮮ニ御關係ノアラセラル
ル方ハ既ニ御承知ノコトト存ジマスが大正十年ニ産業調査委員會ヲ開キ、朝鮮ハ固ヨ
リ内地方面ノ權威アル方々ノ御集リヲ願ヒマシテ種々御意見ヲ伺ツタ事歴ガアルノ
デアリマス、其後本府ニ於キマシテハ當時ノ調査研究ニ成ル方針ニ基キ着々之ガ實現
ニ力メ又民間有力各位ニ於カレテモ種々協力盡瘁セラレマシタ結果次第ニ其實績ヲ
擧ゲマシテ今日ノ發達ヲ示スニ至ツタノデアリマス、即チ併合以來投下セラレタ内地
資本ハ實ニ四十億圓ニ達シ總生産額ノ動キニ付テ見マシテモ併合當時——明治四十四
年ノ統計ニ依レバ約三億八千萬圓ニ過ギナカッタノデアリマス、今日デハ約二十億
圓トナツテ五倍餘ニ迄ノ増加ヲ示シテキルノデアリマス、勿論此ノ數字カラハ物價騰

貴ニ因ル勸ヲ差引カネバナリマセスケレ共、以テ躍進ノ大勢ヲ窺ヒ得ルノデアリマス。併シ朝鮮ガ有スル産業的素地即チ其ノ包藏スル各種ノ資源、通商貿易上ニ於ケル地理的優位、好轉セル環境等ニ想ヲ到セバ今日ノ朝鮮ノ産業經濟ノ狀態ハ未ダ發展初期ノ途上ニ在ルニ過ギズシテ今後開拓スベキ餘地ノ尠カラザルヲ感ズルノデアリマス。先ヅ農業ニ付テ申シマスルニ先刻總督ノ御話ニモアリマシタ如ク從來永年ニ互リ農業第一主義ノ獎勵施設ヲ採リ來ツタ結果今日デハ其ノ産額ハ十億圓ヲ超エ併合當時ノ二億二千萬圓ニ比スレバ著シク進歩ヲ示シテキルノデアリマス、併シ人口ノ八割ヲ占ムル農民ト四百五十萬町歩ノ耕地ヲ有スル朝鮮トシテハ各種作物ノ反當收量ヲ内地ノ夫レト比較シマシテモ今日ノ生産額ハ決シテ充分トハ言ヘナイノデアリマシテ今後改良施設スベキモノ、遺利ノ收ムベキモノ、新ニ開發スベキモノ等モ幾多存スルノデアリマス、即チ水利灌溉ノ法ヲ講ジテ毎年遭遇スル旱水害ヲ防止スルトカ、施肥耕種法ニ改善ヲ加ヘルトカ、或ハ右畜農業ヲ獎勵スルトカ、高地帯ノ開發ヲ圖ルトカ又ハ棉花、羊毛等重要農産物ノ増産ヲ圖ルトカノ施設ヲ進メ尙之ト先年來努力シ來リマシタ農村振興運動トヲ駢進致シマスルナラバ農業生産ハ今後必ズヤ相當増産シ又農家ノ經濟モ好轉スルモノト信ズルノデアリマス。

次ニ林業デアリマスガ以前ノ朝鮮ヲ御存ジノ御方デ今日沿道ヲ御覽ニナツテ驚カレナイ方ハナイ位山ハ緑化シテ參リマシタ、山林ノ荒廢ハ當ニ林産物ノ供給ニ苦シム許リデナク治水、産業等各方面ニ甚大ナル影響ヲ及ボスモノデアリマスカラ始政以來徹底的ニ森林ノ保護ヲ加ヘルト共ニ砂防工事ヲ施行シ又造林ヲ獎勵シテ一意緑化ヲ圖リ來ツタ結果漸ク今日御覽ノ程度迄ニ成績ヲ擧グ得タノデアリマス、而シテ林産額ノ如キモ一億一千萬圓ニ達シ始政當時ノ五倍餘ニ増加シテハオリマスガ尙散生地、未立木地ノ面積ハ三百五十萬町歩モアリマシテ此等ノ利用厚生ノ途ヲ講ズルトカ北鮮地方ニ於ケル森林ノ利用開發ヲ圖ルトカ今後林業方面ニハ幾多施設ヲ俟ツモノガアリマス。

又水産業ニ於キマシテハ始政當時ハ僅々九百萬圓ノ産額ニ過ギナカツタモノガ漁船ノ改造、漁撈方法ノ改善等ニ努メマシタ結果昨年ハ一億三千萬圓ノ産額ヲ示スニ至リマシタ、近年新漁場ノ開拓、沖合漁業ノ普及、養殖及製造業ノ改善、製品ノ海外ニ於ケル新市場開拓等ハ特ニ著シキモノガアリマスカラ水産業ノ發達ハ寧ロ今後ノ施設ニ俟ツベキモノト思ハレマス。

次ニ鑛山業、電氣事業ノ方面ニ於キマシテハ近年極メテ著シキ特色ヲ發揮致スニ至ツ

タノデアリマス、即チ鑛山業ニ於テハ始政當時ノ産額ハ僅々六百萬圓ニ過ギナカツタノデアリマスガ其ノ後地下資源ニ對スル各種ノ調査利用試験及探掘ノ獎勵ニ努メマシタ結果金、鐵、石炭及黒鉛鑛業ノ如キハ著シキ進歩ヲ示シ又最近ニハマダグネサイト、明礬石等ノ輕金屬原料ヲ發見シテ朝鮮ガ地下資源ノ一大寶庫デアルコトヲ立證シ、一面環境ノ好轉等モ伴ヒマシテ此等ノ探掘、精鍊業ハ相踵イデ起リ昨年ハ八千八百萬圓ノ産額ヲ示スニ至リ之ガ諸條件ハ極メテ好望ノ將來ヲ指シテ居ルデアリマス、他方鑛工業ノ母タル發電事業モ從來ハ火力發電ノミデアリマシタガ發電水力調査ノ結果優秀ナル電源尠カラザルコトガ判明致シマシタノデ之ガ開發ヲ助長スルト共ニ發電計畫及送電網計畫並ニ電氣事業ノ企業形態等電氣事業統制ニ關スル方策ヲ樹テ秩序アル發展ヲ助成シテ參リマシタノデ今日ニ於テハ投下資本一億五千萬圓、發電力五十四萬キロワットヲ算スルニ至リマシタ、尙此ノ外開發ノ餘地ハ豊富ニ剩サレテ居ルデアリマシテ、今後需要ノ増加ニ伴ヒ企業化シ得ルモノト信ズルデアリマス、次ニ工業ハ永年ニ互リ極メテ不振ノ状態ニ在リマシテ需要ノ大部分ハ輪移入ニ俟ツ状態デアリマシタガ試験機關ノ活動、各種ノ獎勵施設及當業者ノ拮据經營ノ結果漸次成績舉リ殊ニ近年各種資源ノ開發、動力及燃料問題ノ解決、隣邦滿洲國ノ創建、海外新市

場ノ開拓、朝鮮ノ産業的素地ニ對スル内外ノ認識向上、農山漁村ニ於ケル購買力ノ増進等内外共ニ環境ハ著シク好轉致シマシテ製鐵、精鍊、人造肥料、油脂、石炭液化等ノ新興工業ヲ始メ紡織、セメント、石油、麥酒等國內需要品ノ製造工業及琺瑯鐵器、電球、硬質陶器、水産罐詰等海外輸出品ノ製造工業ガ著シク勃興シテ參リマシテ昨年ノ如キ實ニ六億一千萬圓ノ産額ヲ示シ僅々二、三年ニシテ倍額ト爲ツタノデアリマス、併シ之ヲ内地ト比較致シマスレバ名古屋地方ノ産額ニモ及バナイ位デ漸ク勃興ノ緒ニ就イタ程度ニ在ル狀況デアリマス、

又貿易ニ於キマシテハ始政當時僅ニ六千萬圓ヲ示シテ居マシタガ鮮内ニ於ケル各種産業ノ勃興、國外新市場ノ開拓、交通運輸ノ開發等ニ伴ヒ輸移出入共ニ著シク増加シマシテ昨年ハ十二億一千萬圓ト謂フ巨額ヲ示スニ至ツタノデアリマス、而シテ其ノ八割六分迄ガ對内地取引ヲ以テ占メラレ残り一割四分ノ對外貿易中、滿洲國トノ取引ハ約七割ヲ占メ而モ比年著増ノ傾向ヲ示シツツアルコトハ鮮滿ノ特殊關係ニ鑑ミ洵ニ喜バシキ現象ト申サネバナリマセス、同時ニ滿洲國ヲ除イタ外國貿易ノ數字ガ未ダ微々タルモノデアアルコトハ、朝鮮産品トシテ海外市場ニ對スル活動ノ餘地ノ甚ダ大ナルモノアルヲ感ズルデアリマス、

斯クノ如ク農林水礦工業ニ互ル各産業ハ始政以來著シキ發展ノ迹ヲ示シ、特ニ工礦業方面ニ於テハ近年飛躍的伸張ヲナシ朝鮮經濟ノ新生面ヲ開キ來ツタノデアリマスガ、此ノ機運ヲシテ益々健全ナル將來ニ導キ、國益ト民利ヲ大ナラシメテ國家ノ隆運ニ貢獻スルニ付テハ豫メ一定ノ指標、規矩ヲ定メテ之ガ動向ヲ導キ助長ヲ策スルノ必要ガ生ズルノデアリマス。

尙産業ノ消長ヲ支配スル交通ノ政策ニ致シマシテモ、現在朝鮮ニ於ケル鐵道ノ敷設延長ハ官私鐵ヲ合セテ約四千九百軒デアリマスガ其ノ普及程度ヲ内地ト比較スレバ面積比ニ於テ本州ノ三分ノ一ニ過ギザル狀況デアリ、又人的資源ニ於ケル教育ノ部門ニ在リテモ尙擴充ヲ要スル事項ガ多クアルト存ズルノデアリマス、勿論此等ハ直チニ財政ノ問題ト相成ル譯デハアリマスガ、施設ノ緩急ヤ運用ノ改善ニ付テハ批判ノ餘地ヲ存スル筈デアリマス、其他金融、通信ノ如キ産業ト直接ノ關係アル事項ニ付テモ今後如何ナル用意ヲ必要トスルカヲ調査研究シ置クベキダト思フノデアリマス。

而シテ之等ノ方策ヲ決定スルニ當リテハ、或ハ日滿一體主義ノ立前ヨリ内地産業及滿洲國産業トノ現在及將來ニ互ツテ豫想サレル摩擦面ヲ如何ニ緩和シテ相互依存ノ關係ヲ強化シツツ朝鮮自體ノ産業發展ヲ期スベキカト云フコト、或ハ又廣義國防ノ見地

ヨリ見テ朝鮮産業ニ如何ナル可能カト任務トガアルカト云フコトナド、幾多ノ觀點ヨリ之ヲ検討考議シテ將來ヲ律シ置クノ必要ヲ見ルノデアリマス。固ヨリ此等ニ付キマシテハ總督府ニ於キマシテモ夫々研究ヲ怠ラズ相當ノ用意ヲ有シテ居ルノデアリマスガ、複雑ナル經濟現象ヲ對象ト致シマス場合、獨斷偏見ハ嚴ニ之ヲ避ケテ中正ノ途ヲ選ズベキデアリマスニ付テハ相成ルベク各方面權威者ノ說ニ聽キ取ツテ以テ國家重大時期ニ於ケル朝鮮施政ノ根本方策ノ完備ヲ期セントスル趣旨ヲ以テ各位ニ對シ本會委員ノ御受諾ヲ御願ヒ致シマシタ次第デアリマス。

恰モ本年ハ我が朝鮮ニトリマシテハ特殊ノ意義ヲ有スル年デアリマス、即チ昨秋十月ハ始政二十五周年ノ記念式典ヲ舉行シマシテ茲ニ統治史上第一ノ四半世紀ヲ終ヘ、正ニ第二ノ四半世紀ヲ期シテ統治ノ使命ヲ完成スルノ意義ヲ明カニサレタノデアリマシテ本年ハ實ニ其ノ第一歩ヲ踏ミ出シタ年デアアルノデアリマス、而シテ朝鮮ノ産業經濟ハ總督ノ御言葉ノ如ク原始産業中心時代カラ工礦業ノ勃興機運ヲ織入レテ農工駢進ノ時代ニ推シ移ツタノデアリマシテ、今日此ノ時期ニ處シ過去ノ業績ヲ省ミテ將來ニ備フルノ大計ヲ樹立スベク、内鮮滿ニ互ル官民有力諸彦ヲ御迎ヘシテ一堂ニ會シ議ヲ建テ案ヲ練リマスルコトハ、歴史的ナル感懷ヲスラ禁ジ得ナイノデアリマス、各位何

卒彼上ノ趣旨ヲ御諒解ノ上、御多用ノ所洵ニ御迷惑トハ存ジマスガ本會ノ目的達成ノ
 タメニ、各種ノ觀點カラ腹藏ナキ御意見ヲ開陳サレマシテ、會期間ヲ最モ有效ニ御活用
 下サル様切ニ希望致ス次第デアリマス。

最後ニ本會ノ會議ノコトニ付キマシテ一言申上ゲタイト思ヒマス。

本會ハ御手許ニ差上ゲテ置キマシタ朝鮮産業經濟調査會規程ニ依リ設ケラレマシタ
 諮問機關デアアリマスガ餘リ形式ニ流レルト云フヤウナコトノナイヤウニ極メテ率
 直ナ懇談的ノ會トシテ忌憚ナキ御話ヲ願フ方ガ宜カラウト思ヒマス、付テハ議事規則
 ノヤウナモノモ或ハ必要デナイカニモ思ハレマスガ、只議事ノ進行上矢張り定メテ置
 イタ方ガ便宜カト思ヒマシテ別冊ノヤウナ議事規則ヲ作ツテ置キマシタカラ大體之
 ニ依テ議ヲ進メタイト思ヒマスノデ御了承ヲ願ヒマス。

次ニ各位ノ御審議上ノ便宜ニ供スル爲ニ御手許ニ差上ゲテ置キマシタヤウナ答申案
 試案ヲ作ツテ見タノデアリマスガ、之ハ單ナル腹案ニ過ギナイノデアリマスカラ必ズ
 シモ之ニ拘泥セラレズ御意見ナリ御質問等ガアリマスレバ御腹藏ナク御話願ヒタイ
 ト思ヒマス、尙本會ニ於ケル各位ノ御意見ニ依リマシテ今後相當ノ方策ヲ樹テ施設ヲ
 爲スノデアリマスガ、之ガ實行ニ付キマシテハ財政上ノ關係ヲ考慮致シマシテ自ラ緩

急ヲ計リ之ガ按配ヲ爲サネバナラスコトハ申上ゲル迄モ無イコトデアリマスガ是等
 ノ點モ御考慮置キ願ヒタイト思フノデアリマス。

次ニ會議ハ別冊日程ノ通ニ行ヒタイト思ヒマスカラ何卒御了承ヲ願ヒマス。

夫デハ議事ニ入りマスガ先ヅ總括的ノ御意見及御質問ヲ承リ次ニ諮問事項ノ各部門
 ニ互リ詳細御意見及御質問ヲ承ルコトニ致シタイト思ヒマス。

